



JUKI

Mind&Technology



CONTENTS

JUKIはどんな会社？

- 4 事業領域
- 6 JUKI製品を使って作られるもの
- 8 JUKIの企業価値創造

JUKIが目指すもの

- 12 社長インタビュー

JUKIの事業

- 18 縫製機器事業
(工業用ミシン事業、家庭用ミシン事業)
- 22 産業装置事業
- 24 グループ事業等
(グループ事業、スリーブバスター、データエントリー装置)

企業価値創造を支える力

- 26 ステークホルダーとともに
- 32 品質経営の推進とイノベティブな取り組み
- 34 環境に対する取り組み
- 40 ガバナンス

データセクション

- 42 財務データ
- 46 沿革
- 48 JUKIのグローバル拠点
- 50 会社概要および株式情報

編集方針

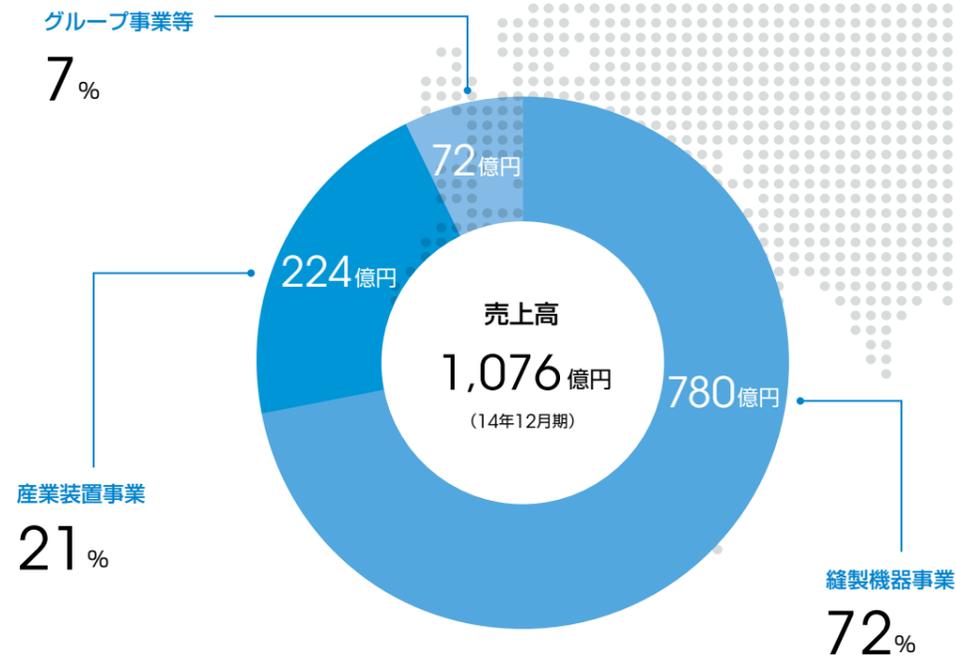
JUKIコーポレートレポート2015は、会社案内と環境報告書の要素を中心に1冊に統合した報告書です。今回発行する本レポートでは、当社グループの中長期的価値創造について株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様にご理解いただくため、ESG（環境、社会、ガバナンス）情報を拡充しています。

見直しに関する注意事項

本レポートに記載されている、JUKI株式会社および連結子会社の計画、目標、戦略などは、編集時点における見直しであり、これらは、入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいています。従って、これらの業績見直しは、将来の業績を保証するものではなく、さまざまな重要な要素により、大きく異なる結果になることがあります。

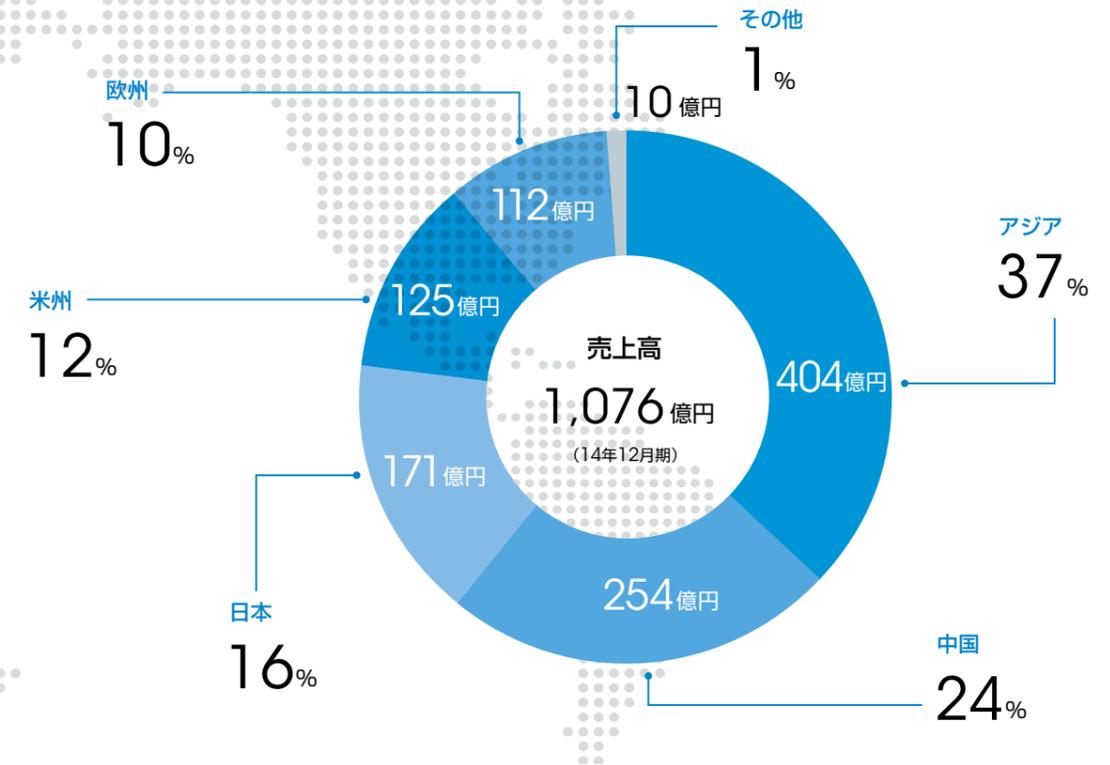
●事業別売上高割合

JUKIは、主力の縫製機器事業を中心に、先進の技術・価値ある技術で世界のものづくりを支えています。



●地域別売上高割合

世界約180カ国をカバーする販売・サービスネットワークで世界中のお客様から強い支持をいただいています。



縫製機器事業

工業用ミシン



大量生産を目的とした縫製工場などで使われるミシンを開発・製造・販売する事業です。最先端トレンドを提案するメゾンブランドからカジュアルアパレル製品、スポーツ用品、カーシートなど、縫製が伴うあらゆる分野の製品の“縫い”を実現しています。

家庭用ミシン



一般家庭およびプロユースのためのミシンを開発・製造・販売する事業です。工業用ミシンで培った技術を用い、こだわりの縫製品質と性能で、快適なソーイングライフをサポートしています。

産業装置事業

産業装置



エレクトロニクス製品の電子部品を実装する装置、印刷機、検査機などの工業用途の機械装置を開発・製造・販売する事業です。私たちの生活や産業と深く結びつき、欠かすことができないエレクトロニクス製品の生産を支えています。

グループ事業等

グループ事業



JUKI グループ各社が、主要製品を生産する中で培った開発・設計・生産・生産管理のノウハウを活かして、さまざまな製品の製造・加工などを受託する事業です。精密鑄造・精密加工・板金加工・金型製造などのものづくり技術を深化・組み合わせ、お客様が望まれるユニット製品として具現化します。

スリープバスター



居眠り運転警告装置やそのデータを活用し、安全・安心な走行の習慣化を促進するための事業です。過労運転防止や交通事故の低減に貢献しています。

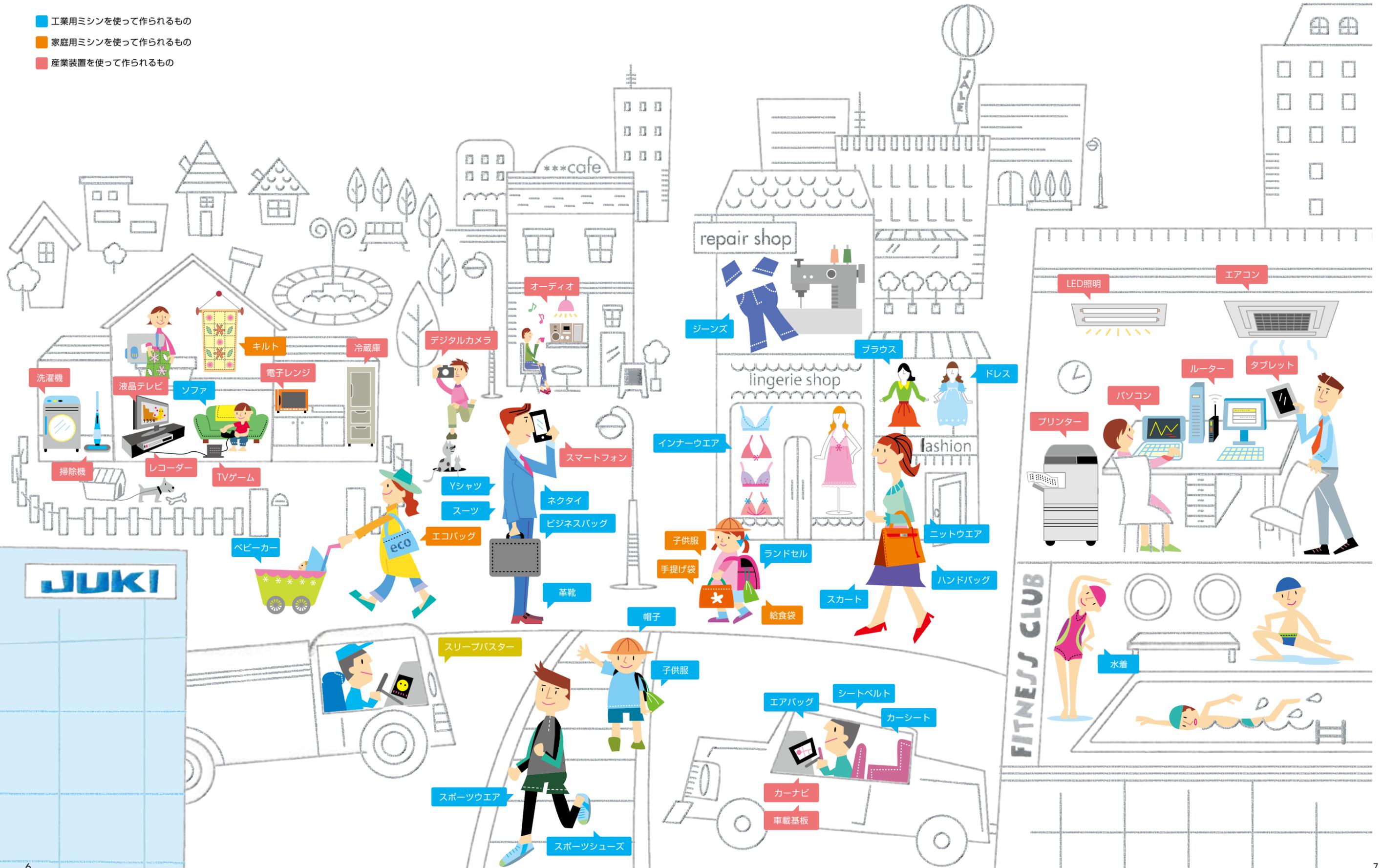
データエントリー装置



工夫された入力装置で、大量のデータを処理する情報処理産業をサポートする事業です。生命保険会社、銀行など大量の情報を処理する業界のニーズに対応しています。

JUKIの製品を使って、こんな身近な“もの”が生まれています

- 工業用ミシンを使って作られるもの
- 家庭用ミシンを使って作られるもの
- 産業装置を使って作られるもの



JUKIはどんな会社？

JUKIが目指すもの

JUKIの事業

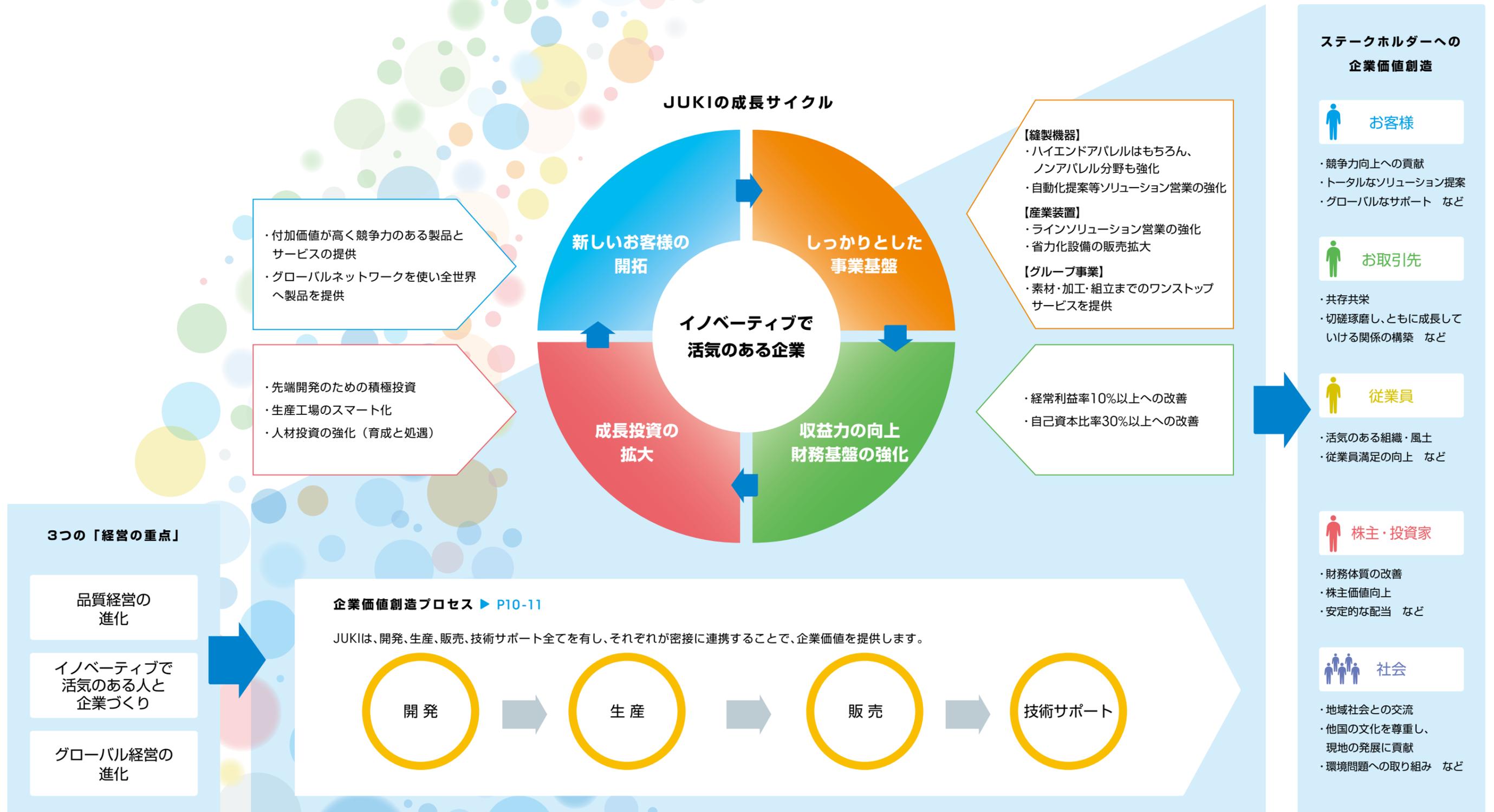
企業価値創造を支える力

データセクション

JUKIの企業価値創造フロー（ビジネスモデル）

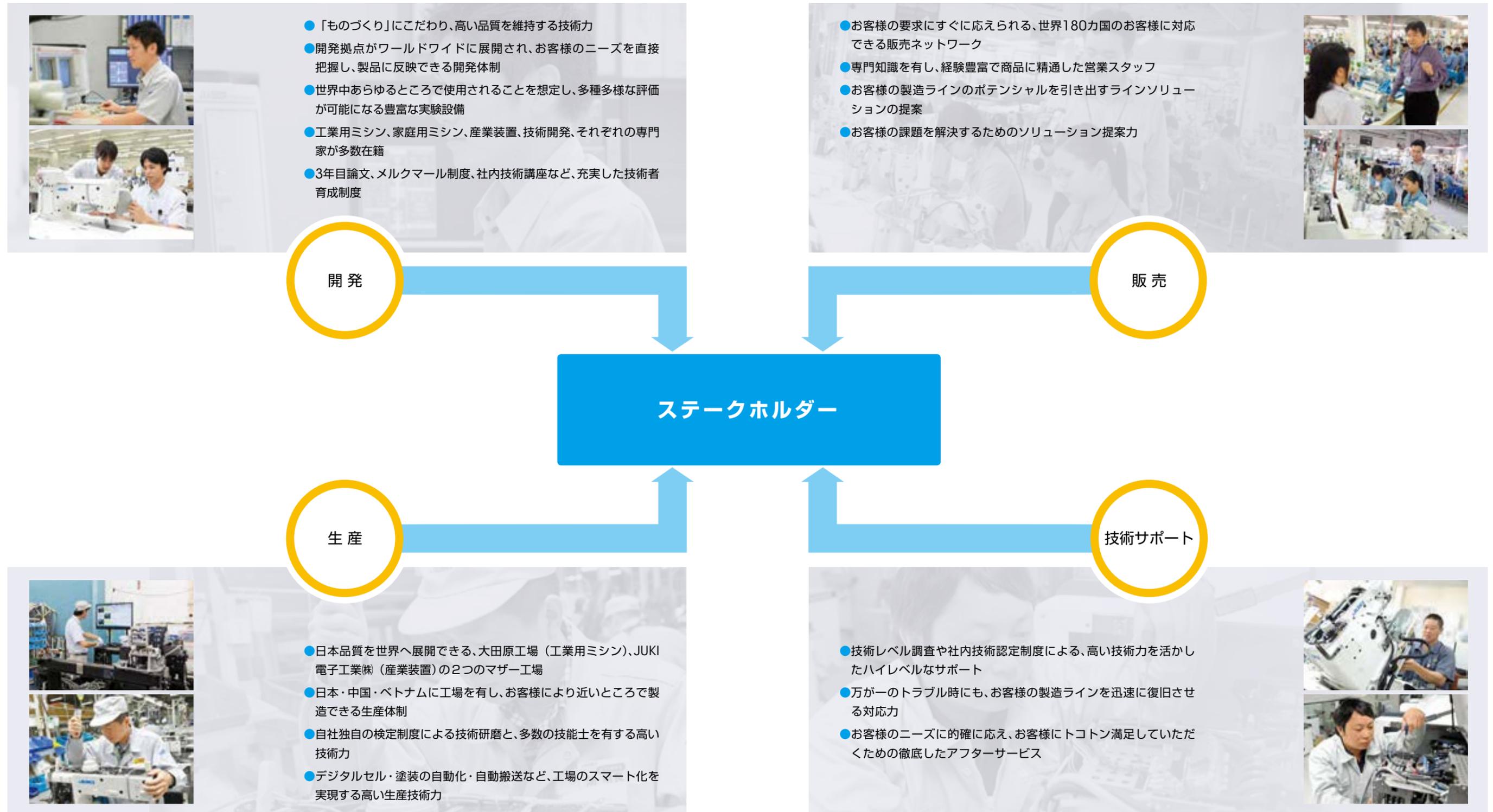
JUKIには、3つの「経営の重点」があり、お客様、お取引先、従業員、株主・投資家、社会といったステークホルダーに対し、企業価値創造に取り組んでいます。

そして、JUKIの成長サイクルにより、イノベティブで活気のある企業を実現し、JUKIの企業価値創造の力をさらに高めていく取り組みを行っています。



企業価値創造プロセス（JUKIの強み）

JUKIは創業以来、「ものづくり」を社業の中心に据え、新たな価値を市場に提供し続けてきました。JUKIの強みである「開発」、「生産」、「販売」、「技術サポート」という企業価値創造プロセスを通し、これからも価値のある技術、製品、ソリューション、サポートを追求し、ステークホルダーへ提供していきます。



JUKIはどんな会社？

JUKIが目指すもの

JUKIの事業

企業価値創造を支える力

データセクション



代表取締役社長
清原 晃

社長インタビュー

JUKIの企業価値を進化させ 継続的な成長への基盤づくりを進める

2015年～2016年の中期経営計画を中心に、JUKIの若手社員が社長にインタビューをしました。JUKIの現状や向かうべき方向性、将来的な展望を、清原社長が語ります。

● インタビュアー



JUKIが100年、200年と
継続的に成長していくためには
お客様をよく知り、技術を軸に新たな分野への
進出が必要

—まず、2014年の業績についてお話しください。

数字から申し上げますと、売上高が1,076億円、経常利益77億円、当期純利益60億円の増収増益を達成することができました。財務面では、当期純利益の積み上げと増資により、自己資本比率は18%強の水準まで改善しました。結果として株主の皆様への配当も実現できました。これは、2013年の第一四半期に着手した構造改革の成果が現れたものです。

事業ごとに見てみると、縫製機器事業が13%、産業装置事業

が19%と伸長。グループ事業も7%の伸びを見せ、それぞれの事業の売上は総じて順調だったと言えるでしょう。

—各事業領域の状況についてお話しください。

縫製機器事業の好調の要因として挙げられるのは、工業用ミシン事業のノンアパレルです。カーシートやエアバッグ、スポーツシューズなどの分野に関し、営業・開発の両スタッフがお客様について研究を進め、お客様に合わせた営業活動を展開したことが奏功しました。

産業装置事業については、お客様の工場での技術革新が非常に速い分野です。それに対応すべくJUKIでは、ソニーグループの実装機器部門と統合し、製品のジャンルを拡大しました。具体的には高速マウンタや印刷機、検査機などです。これによ



り、製品ラインアップとサポート力が向上し、事業としての力を蓄えることができました。いわば、さらなる飛躍に向けた準備が整ったという状況です。

次に、家庭用ミシンですが、この分野におけるJUKIのシェアは決して高いものではありません。その中で光るのが、JUKIならではの特徴や強みを持った製品です。例えば、キルト用ミシンや職業用ミシンといった特徴的なマーケットでは、工業ミシンの優れたノウハウを持っているJUKIの家庭用ミシンに一日の長があります。特に、キルト用ミシンに関してはアメリカでの需要が高く、マーケットとしては非常に有望です。展示会への参加などを通し、市場へのアピールを続けたいと思います。

これらの事業に関して共通するのが、「お客様を知る」ことの重要性です。お客様がJUKIの製品をどのような環境で、どのように使っているのか。それを知ること、新たなニーズを発掘できるのです。JUKIでは、営業の社員のみならず、開発の社員も、お客様のところへ足を運び取り組みを積極的に展開しています。

この姿勢は、今後も続けていきたいですね。

——グループ事業についてはいかがでしょう。

工業用ミシン・家庭用ミシン・マウンタの製造で培われた技

術力は、JUKIの各グループ会社が保有する貴重な財産です。

昨今の円安の影響を受け、ものづくりの現場は日本へ回帰する現象が見られています。その際に発生する部品加工や組立のニーズを受託事業として請け負ってしまおうというのがグループ事業のビジョンです。

JUKIのグループ内には、精密鑄造から部品加工、組立にいたるまで、一般的なメーカーが必要とするほとんどの工程をカバーできる製造技術のバリエーションがあります。グループ各社が協力し、一貫した生産体制を構築することで、受託案件を丸ごとJUKIグループに取り込むことができますようになります。結果として、付加価値が上がり利益率も高くなるでしょう。

企業は、1つの事業だけを50年、100年とやり続ければ良いというわけではありません。100年、200年と伝統のある企業は、その事業を時代とともに変化させ、成長につなげています。もちろん、コア技術など企業のアイデンティティとして大切にしなければならないこともあります。そういった意味で、グループ事業はJUKIのコア事業を活かしつつ新たな事業領域を切り拓く分野として、将来的には縫製機器、産業装置事業に並ぶJUKIの第3の柱として成長するよう期待しています。

「イノベティブ」をキーワードに 会社を成長へのサイクルに乗せ、 強固な事業基盤を確立します。

成長へのサイクルを確立し
21世紀を生き抜く
グローバルなものづくり企業へ

——中期経営計画についてお話しください。

JUKIでは、2015年～2016年の2年間の中期経営計画を策定しています。通常、中期経営計画というのは3年単位がほとんどです。ところが、当社のお客様は、多くが海外のお客様です。海外の経済状況はめまぐるしく変化し、それによって為替も変動します。そのため、私たちの見通しがつく2年をスパンとし、計画を立案しています。

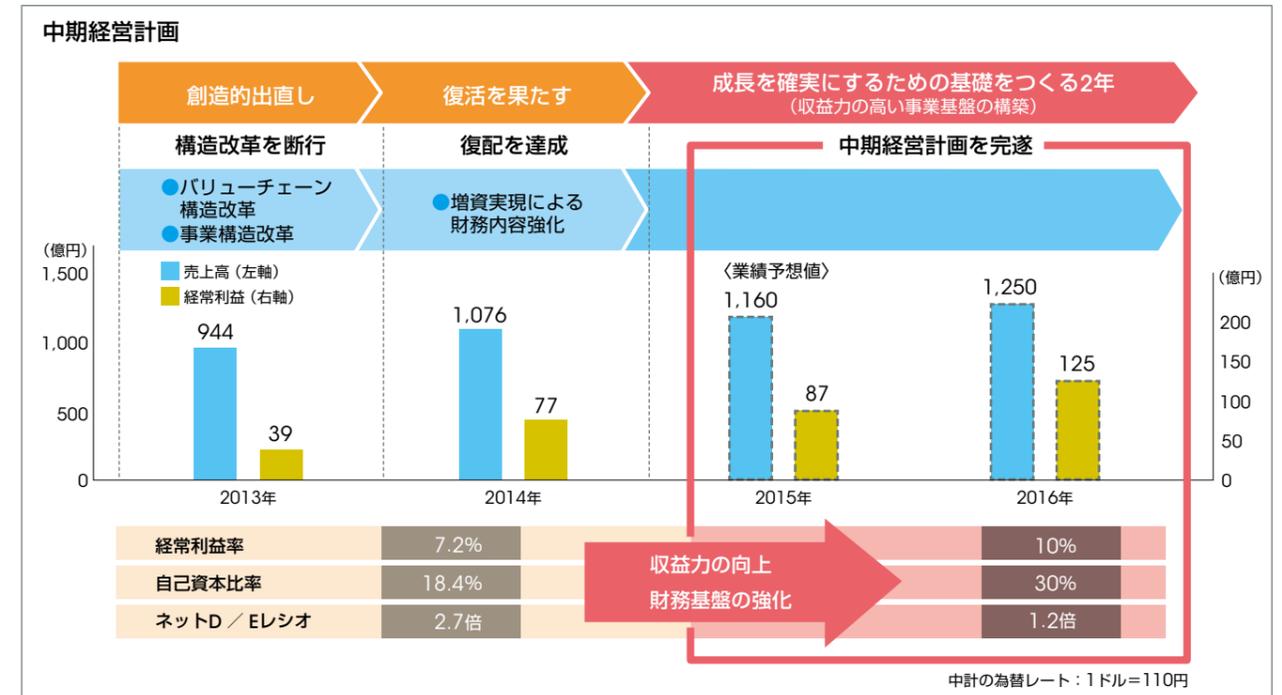
今中期経営計画では「21世紀を生き抜くグローバルなものづくり企業～イノベティブ（革新的）で活気のある社員が

力を合わせ、変化に対応し強い事業を創り出していく企業～」をビジョンとして掲げています。

この中で、キーワードとなるのは「イノベティブ」です。「しっかりとした事業基盤の構築」、「収益力の向上」、「成長投資の拡大」、「新しいお客様の開拓」の4つにおいて革新的なアイデアを実現し、会社を成長へのサイクルに乗せ、強固な事業基盤を確立します。

目標数値としては、2015年は売上高1,160億円、経常利益87億円を、2016年は売上高1,250億円、経常利益125億円を目標に掲げ、自己資本比率も現状の18.4%から2016年末には30%への向上を目指します。

2013年は、JUKIにとって非常に厳しい年でした。構造改革に着手し、創意的な再出発を切ったことから、2014年は増収





JUKIの仲間が同じ目標に向かい、
ともに歩みを進めることで、
個々の力は何倍にも掛け合わさり、
強いチームが形成されるのです。



増益を達成しました。それに続き、2015年～2016年では今後の成長の基礎をつくっていかねばなりません。この2年間を礎に、次の中期経営計画につなげられる強い人づくりと組織づくりをしていきます。

縫製機器事業では、新興国への工業用ミシンの積極的な展開はもとより、ノンパレル、ニット、自動機、パーツ、家庭用ミシンといった高付加価値が求められる分野で存分にJUKIの技術力を発揮したいと考えています。産業装置事業では、スマートフォンやタブレット端末など、従来のJUKIの汎用機では参入が難しかった分野に積極的に進出します。省力化設備やLED市場も伸びが期待できる分野です。

中期経営計画の目標は、非常にチャレンジングではありま

すが、人は志が高ければ高いほど、そこに向かって努力をするようになります。その努力こそが成長へのエンジンとなるのです。今から見通せる数値はあくまで“予測”でしかなく、“目標”にはなり得ません。大切なことは、社員一人ひとりが挑戦への気概を持ち、各々の長所を持ち寄ってシナジーを発揮することです。

例えば、工場の機械は一人では動かせません。複数の方が力を合わせることで、初めてきちんと稼働します。営業や開発にしても、一人でできることは限られています。JUKIの仲間として同じ目標に向かい、ともに歩みを進めることで、個々の力は何倍にも掛け合わさり、強いチームが形成されるのです。

ます。そのような中、社員がそれぞれの個性を発揮し、思う存分働ける環境づくり、仕事のしやすい職場づくりは企業価値向上に必要不可欠です。担当者と担当者の間をすり抜けていくような仕事にも進んで取り組むような積極性のある風土づくり、シームレスな体制も整備しなければならない課題です。

工場や設備に関しても、メーカーを支える大切な財産としてレベルアップが求められます。現在、JUKIの工場では減価償却の終わった古い機械が稼働している様子が一部で見受けられます。これからは、JUKIの工場もスマート化を積極的に推進し、生産性が高く、従業員が働きやすい工場にさらに進化していかなくてはなりません。また、業務をスピーディーかつ円滑にするシステムの導入など、将来に役立つものには積極的に投資を進めていく予定です。

開発の面でも「イノベティブ」を存分に発揮し、先端分野の開発にも積極的に取り組んでいきます。

成長投資と生産性向上には、密接な関係があります。人が成長し、設備のスマート化が進めば、生産性は向上します。それは、単にものを早く作れるようになるというだけでなく、開発面でも付加価値のあるものが製造できるようになり、お客様への提案の幅も広がるということです。

「品質経営の進化」「グローバル経営の進化」
「イノベティブで活気のある人と企業づくり」が、
JUKIの事業価値を生み出す源泉

——最後に、社長の考えるJUKIの企業価値についてお話しください。

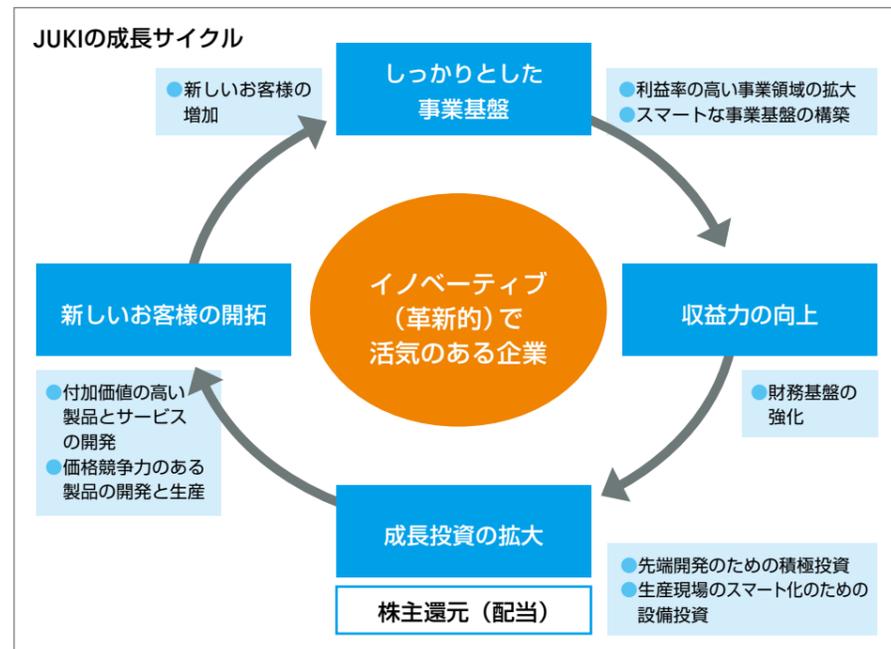
JUKIがお客様に提供できる大きな企業価値を生み出す源泉として、「品質経営の進化」、「グローバル経営の進化」、「イノベティブで活気のある人と企業づくり」の3つの「経営の重点」が挙げられます。

ものづくりの会社として欠かせない「品質経営の進化」は、JUKIの全部門に関わる精神です。開発・製造部門といった現場だけではなく、営業部門も高品質な提案営業を進める。これは、JUKIがDNAとして脈々と受け継いできたものです。

次に、「グローバル経営の進化」ですが、JUKIのように世界中にグローバルネットワークを整備し、生産・開発・販売・技術サポートの拠点を設けている企業はそう多くありません。他社であれば解決までにひと月かかるような海外の案件を、JUKIであれば1週間で、しかも日本と同じ品質のものをお届けできる。この姿勢を徹底し進化させることで、競合他社との大きな差別化がはかれると考えています。

最後に、「イノベティブで活気のある人と企業づくり」です。ものづくりの会社として、「イノベティブ」を徹底することにより、これまで世の中になかった製品を生み出すことは至上の喜びであり、最大の武器です。

JUKIだから生み出せる高品質な製品や技術、サービス、そういったものをグローバルネットワークを駆使して全世界のお客様のもとへお届けする。それが、JUKIが何よりも大切にしている企業価値なのです。この企業価値を進化させ、提供していくことが永続的な成長の鍵であるとともに、JUKIの存在価値向上につながっていくと確信しています。



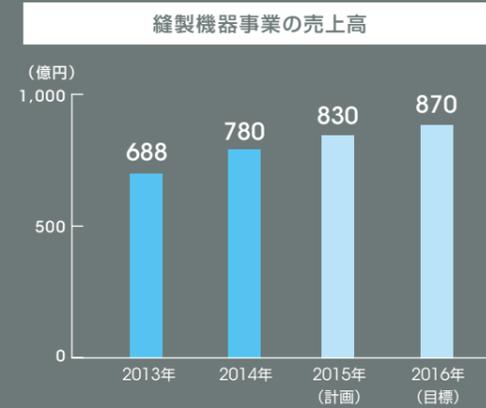
——今後の成長のため、どのようなことに注力しますか？

成長基盤の確立に欠かせないのは、人や工場、システムといったソフト・ハード両面への投資です。例えば、事業領域を拡大するには、市場を調査・分析し、アイデアを生んで実現するためのスタッフが求められます。企業を支える人材の確保と育成は日本人・海外ナショナルスタッフを問わず進めていかなければなりません。

また、人材面ではダイバーシティの推進も欠かせません。昨今、人々の働き方は多種多様に変化してい

縫製機器事業

■工業用ミシン ■家庭用ミシン



2014年は工業用ミシン事業、家庭用ミシン事業ともに販売が好調に推移し、縫製機器事業は前年比13%の増収となりました。

2015年以降は、工業用ミシン事業では、東南アジア・南アジアでの販売を拡大するとともに、ノンアパレル用ミシン、ニット用ミシン、自動機分野でさらに販売拡大をはかります。家庭用ミシン事業では、職業用・キルト分野での販売拡大をはかります。

工業用ミシン事業

ビジョンと成長戦略

ビジョン: 全業種・全地域におけるシェアNo.1事業

～ ラインソリューション (スマートソーイングシステム営業)の本格展開による
FA (ファクトリーオートメーション) ビジネスモデルの構築～

成長戦略

JUKIの工業用ミシン事業は、グローバルで約30%のシェアを獲得し、No.1のシェアを誇っています。

お客様の課題や悩みに対して、JUKIが真のパートナーとなり、お客様とともに成長できるよう、ラインソリューション提案に力を入れています。

事業領域の拡大への取り組み ▶ P19

JUKIは、布帛^{ふはく}用ミシンでは圧倒的なシェアを誇っていますが、ノンアパレル用ミシン、ニット用ミシン、自動機を成長分野に位置づけ、事業領域の拡大に取り組んでいます。

※布帛 (ふはく): スーツ、Yシャツなどの素材である織物

縫製産地移動への取り組み ▶ P20

中国における人件費の高騰や人手不足などにより、縫製産地は中国から東南アジア・南アジアに移動しています。

JUKIは、従来、中国での売上高比率が高かったのですが、東南アジア・南アジアを成長地域として位置づけ、販売拡大に取り組んだ結果、2014年には、東南アジア・南アジアでの売上高比率が50%となりました。今後は中南米・中近東・アフリカでの需要拡大を視野に入れ、販売拡大をはかります。

事業領域の拡大

JUKIは、アパレルの布帛用ミシンが主力ですが、この分野は中国メーカーなどとの競争が激しく、成長性や収益性が課題です。現在、成長性と収益性の高い分野での事業領域拡大を進めています。具体的には、ノンアパレル用ミシン、ニット用ミシン、自動機分野で販売を拡大することにより、収益力の向上に取り組んでいます。

特に力を入れているのがノンアパレル用ミシンの分野です。自動車のカーシート、シートベルト、エアバッグやスポーツシューズなどはノンアパレル用のミシンで縫製されています。JUKIは、この分野を成長分野と位置づけ、他社と差別化できるJUKIの技術力、提案力を活かし、販売を拡大しています。

事業領域の位置づけ □ 拡大事業領域

アパレル

自動機

主な縫製品

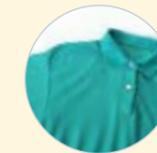
- ・ジーンズのポケット付け
- ・スーツのポケット付け
- ・ボタン付け
- ・ベルトループ付け など



ニット用ミシン

主な縫製品

- ・Tシャツ
- ・ポロシャツ
- ・水着
- ・下着 など



布帛用ミシン

主な縫製品

- ・スーツ
- ・Yシャツ
- ・スラックス
- ・スカート など

ノンアパレル用ミシン

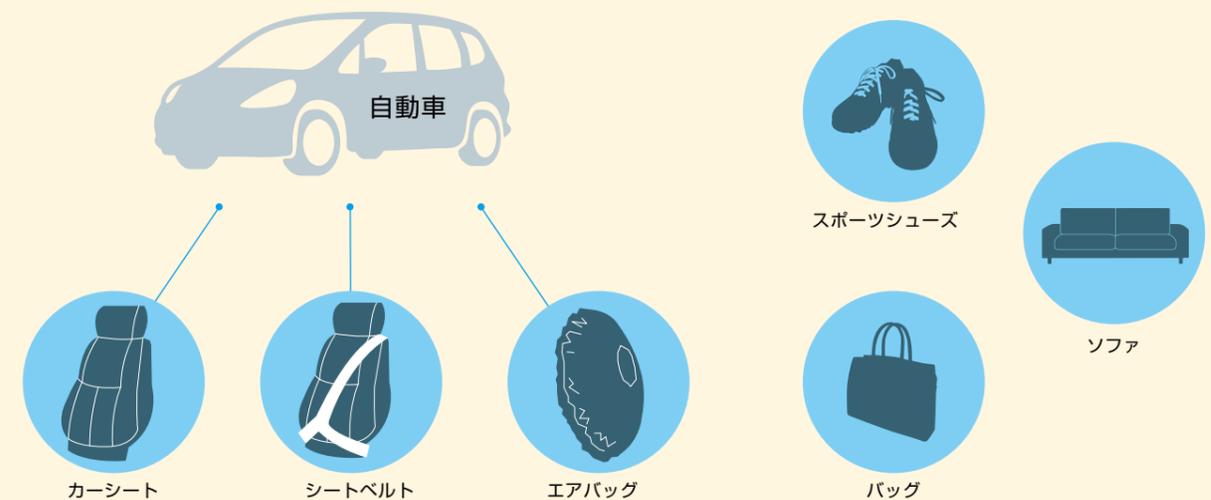
主な縫製品

- ・自動車 (カーシート、シートベルト、エアバッグ)
- ・スポーツシューズ
- ・バッグ
- ・ソファ など



ノンアパレル

ノンアパレル用ミシンで縫製される主な縫製品



工業用ミシン事業

縫製産地移動への取り組み：中国から東南アジア・南アジア、さらに新・新興国へ

世界最大の縫製産地である中国では、人件費の高騰、人手不足などにより、近年、縫製工場の経営が厳しくなっています。そのため、縫製産地が東南アジア・南アジアへ移動しています。JUKIはこの流れをいち早く見通し、産地移動が本格的に始まる2010年以前から、東南アジア・南

アジアに販売拠点を拡充し、販売を拡大してきました。また、今後は、中南米・中近東・アフリカなどの「新・新興国」での販売網を整備し、販売拡大をはかります。

JUKIの東南アジア・南アジアの販売網

JUKIは東南アジア・南アジアのあらゆる国に販売網を広げています。

【東南アジア】

ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン

【南アジア】

インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ

【近年の主な販売拠点設立】

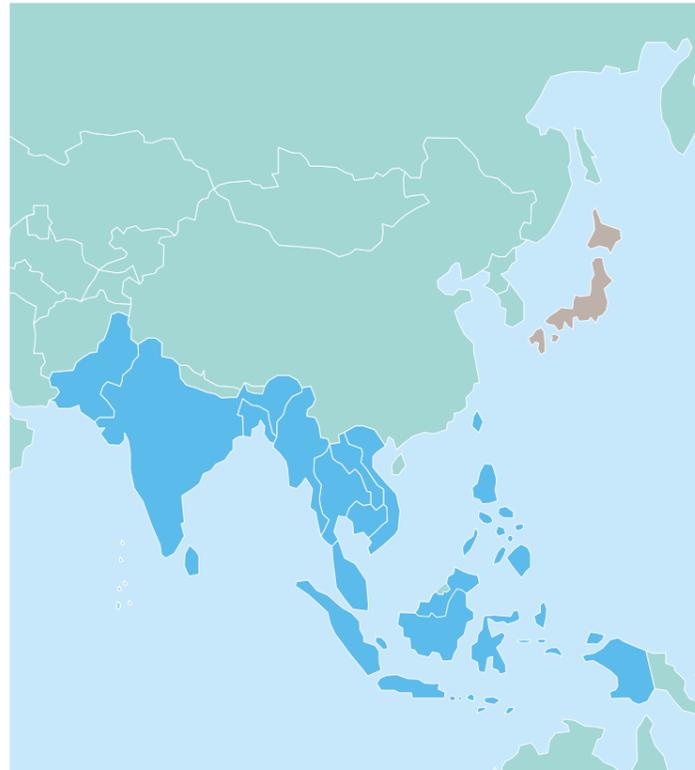
2008年 JUKIインディア設立

2011年 JUKIマシナリーバングラデシュ設立

2012年 JUKIマシナリーベトナム設立

カンボジア支店設立

ミャンマー支店設立



工業用ミシンの主な製品

●布帛用ミシン



ダイレクトドライブ
高速本縫自動糸切りミシン
DDL-9000B

最高の縫い品質・生産性・使いやすさを追求したJUKI本縫いミシンのフラッグシップミシン。省電力・廃油削減など環境にやさしい製品

●ニット用ミシン



高速フラットベッド両面飾り
偏平縫いミシン
MF-7500

伸縮性のある素材を使ったニット製品のヘム縫い工程やカバーリング工程に使用されるミシン。世界初の「新送り機構」を搭載

●ノンアパレル用ミシン



セミドライヘッド高速1本針
本縫総合送り水平大釜ミシン
LU-2810

大物縫製・厚物縫製に必要な機能・性能を大幅に向上させた、ノンアパレル用ミシンのハイグレード機種

●自動機



本縫自動玉縁縫機
APW-896

スーツやジャケット、パンツなどのデザイン性を高める斜めポケットのポケット口を自動縫製するミシン

家庭用ミシン事業

ビジョンと成長戦略

ビジョン：小さくても強く輝きのある事業

～ 消費者マーケットとの接点を重視し、工業用ミシンの技術を活用～

■成長戦略

JUKIの家庭用ミシン事業は、JUKIの事業の中で唯一、消費者の方々との接点のある事業です。JUKIの工業用ミシン事業で培った技術力を活かし、家庭用ミシン、小型ロックミシン、職業用ミシン、キルト用ミシンの分野で販売を拡大しています。

特に近年、力を入れているのが、キルト用ミシンです。アメリカや

ヨーロッパではミシンでキルトを製作する「ミシンキルト」の文化が根づいています。JUKIはこの分野を成長分野に位置づけ、キルト専用のミシンを開発・販売し、お客様から高い評価をいただいています。これからはキルト分野での販売拡大を中心に、家庭用ミシン事業の拡大をはかります。

「第14回 東京国際キルトフェスティバル」(2015年1月、東京ドーム)への出展



ヴィクトリア先生



キルト作品

2015年1月に開催された「第14回 東京国際キルトフェスティバル」に出展。この展示会には約24万人の方が来場され、JUKIブースではNY在住のキルト作家ヴィクトリア先生によるワークショップを開催し、大変にぎわいました。

家庭用ミシンの主な製品

●家庭用ミシン



エクシードキルトスペシャル
HXL-F600JP

キルトターにとって使いやすい模様や操作方法を厳選。糸切り付きコントロール、アップリケ、フリーモーション、縫い目のサイズも簡単設定

●小型ロックミシン



シュルル
MO-1000ML

新機構のイーゼルスレッダーを採用。電動モーターから送られる力強い風の中で、糸通し穴からルーバー穴まで簡単に糸通し

●職業用ミシン



SL-300EX

工業用ミシンの機構を採用し、快適で優れた操作性を誇る直線専用の本格派ミシン。多様な素材に、優美で安定した縫い品質を実現

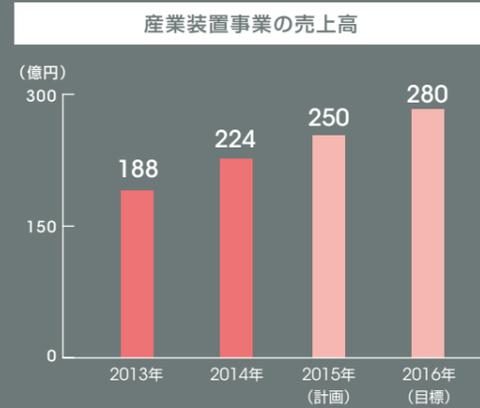
●キルト用ミシン



キルト・ヴァンチャーソー・プロ
TL-2200QVP

キルト専用ロングアームミシンで、タペストリーやベッドカバーなどの大物キルト作品を製作する際に、オリジナルステッチを容易に実現

産業装置事業



2014年は、ソニーグループの実装機器部門との事業統合による新製品や仕入商品などが販売に寄与し、前年比19%の増収となりました。
2015年以降は、実装ライン全体の生産性を上げる「ラインソリューション」に注力し、ソニーとの事業統合による新製品の販売をさらに拡大していくとともに、仕入商品や省力化設備などの販売拡大をはかります。

産業装置事業

ビジョンと成長戦略

ビジョン: ラインソリューション展開力に
抜群の強みをもつ事業

～顧客ニーズを徹底的に収集しソリューションを提供するビジネスモデルの構築～

成長戦略

基板実装市場では、高密度・高精度のニーズがますます高まっています。より速く、より高密度に、より正確に実装するためには、マウンタだけではなく、お客様が求める製品をワンストップでご提供し、ライン全体のソリューションをご提案する必要があります。

JUKIは、2014年にソニーグループの実装機器部門との事業統合により、高速マウンタ、印刷機、検査機をラインアップに加えることができました。また、お客様のライン構築に必要な製品であれば、JUKIに品揃えがない場合は仕入商品としてJUKIがご提供することで、お客様のライン構築のお手伝いをしています。

省力化設備やLED専用マウンタなど、JUKIの独自性が光る製品、さらには面倒見の良い技術サポート体制もお客様に高い支持をいただいています。

JUKIはお客様の真のパートナーとして、課題や悩みをお客様とともに一つひとつ解決していくことがJUKIの成長につながると確信しています。

ラインソリューションの展開を加速

スマートフォンなどのモバイル機器やテレビ、カメラ、ゲーム機など私たちの生活のなかでは、たくさんのお電機製品が使われています。この電機製品に組み込まれ、頭脳役を担うのが「電子回路基板」です。

私たちがお客様である電子回路基板を製造するメーカーは、実装ライン全体での生産性向上と高品質な電子回路基板を製造するため、さまざまな課題に取り組んでいます。

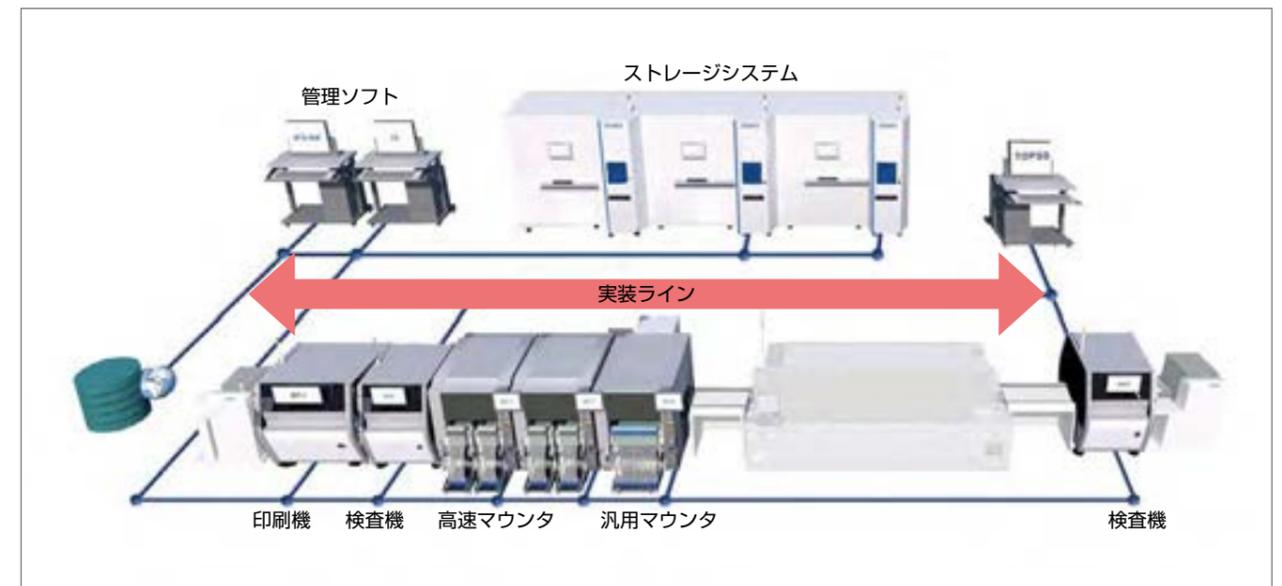
JUKIは、従来、汎用マウンタを中心にビジネスを展開してきましたが、昨年、ソニーグループの実装機器部門と事業統合したことにより、高

速マウンタ、印刷機、検査機など、ラインソリューションに必要な製品をラインアップに加えることができました。

さらに、JUKIはお客様が望まれる製品は可能な限りJUKIでご提供できるよう、ストレージシステムなどの仕入商品もラインアップに加えています。

お客様が実装ラインを構築する際に、JUKIにお話をいただければ、ワンストップで製品をお届けできるとともに、管理ソフトなどもご提供し、実装ライン全体のソリューションで、お客様のお役に立てる取り組みを積極的に展開しています。

実装ライン全体をプロデュースするラインソリューション



産業装置の主な製品

●高速マウンタ



高速コンパクトモジュラーマウンタ RX-7

極小部品をハイスピードで搭載するマウンタ。プラネットヘッドと並列2ヘッド構造により、搭載速度75,000CPHを実現

●汎用マウンタ



高速コンパクトモジュラーマウンタ RX-6

極小サイズのチップ部品から大型IC部品、異型部品など、幅広い種類の部品を搭載できる汎用性の高いマウンタ

●印刷機



クリームはんだ印刷機 RP-1

ペースト状のはんだを基板に印刷する装置。モーションスクリーン機構により、基板とスクリーンマスクの位置合わせ精度とスピードが向上

●検査機



基板検査機 (AOI・SPI併用) RV-1

部品の装着や、はんだ印刷の不良を検査し、不良基板の流出を防ぐ。「クリアビジョンキャプチャリングシステム」により不良を正確かつ高速で検出

グループ事業等



グループ事業等の売上高



2014年は、大手企業の国内への生産回帰の動きが見られるなか、JUKIは、国内グループ会社の連携を強化し、積極的に受注活動を展開したことなどにより、前年比7%の増収となりました。2015年以降は、国内グループ会社の連携をさらに強化するとともに、品質、コスト、納期において、お客様の期待を超えるものづくり力を発揮できる体制を構築し、販売拡大をはかります。

グループ事業

ビジョンと成長戦略

ビジョン：JUKI電子工業を中心とし、国内グループ会社の連携を活かした、精密加工・組立に強いものづくり企業グループ

■成長戦略

グループ事業は、国内にある8つの製造会社のもので、結集させた事業です。主要製品である工業用・家庭用マシン、マウンタの設計・開発から部品製造、製品組立を行うなかで育まれた開発力や精密鑄造・精密加工・板金加工・金型製造など、幅広く高度なものづくり力を有しています。JUKIのグループ事業は、それらのもので、技術を深化・組み合わせ、お客様が望まれるユニット製品として具現化し、販売拡大をはかります。

8つの製造会社



グループ事業のコア技術

● 制御基板の設計～組立



● ロストワックス（精密鑄造）



● 精密加工



● プレス等



ロストワックス（精密鑄造）

ロストワックス（精密鑄造）は金属加工法の1つです。金属材料を融点よりも高い温度で溶かし、鑄型に流し込み、冷やして固める金属加工方法の一種を「鑄造（ちゅうぞう）」といいます。このとき、鑄型を作る方法の違いや熔融金属の流し方の違いにより、いろいろな鑄造法が存在し、その1つにロストワックス（精密鑄造）があります。ロストワックスは、ロウで製品と同じ形状を作り、その周りに鑄砂を

吹きつけて固め、ロウを溶かすことによって鑄型を作る加工法です。複雑な形状を一体鑄造できるため、モーターボートのプロペラなど、機械加工では困難な3次元曲面の製品を製造することができます。特に、人工関節は人体に入るものなので、チタン・ニッケル・コバルト合金などを使用し、不純物が入らないよう、高性能な真空溶解鑄造炉を使用し製造しています。

ロストワックスの製造方法



スリープバスター

ドライバーの安全な走行をサポート

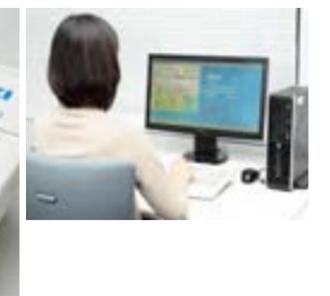
スリープバスターは、過労運転防止や交通事故の低減に貢献する装置です。運転座席にセンサーパッドを装着し、パッドに内蔵されたセンサーが、運転者の上体に発生する生体信号を常に捉えて解析します。運転者の疲労度合いを判定し、集中力の低下や体調の急変（入眠予兆信号など）を画面と音で警告します。さらに、このデータを「ヒュータコ」という専用ソフトを用いてパソコンに取り込むことで、運行時間内の運転手の緊張・集中・覚醒水準の低下や疲労度合いを分析できます。



データエントリー装置

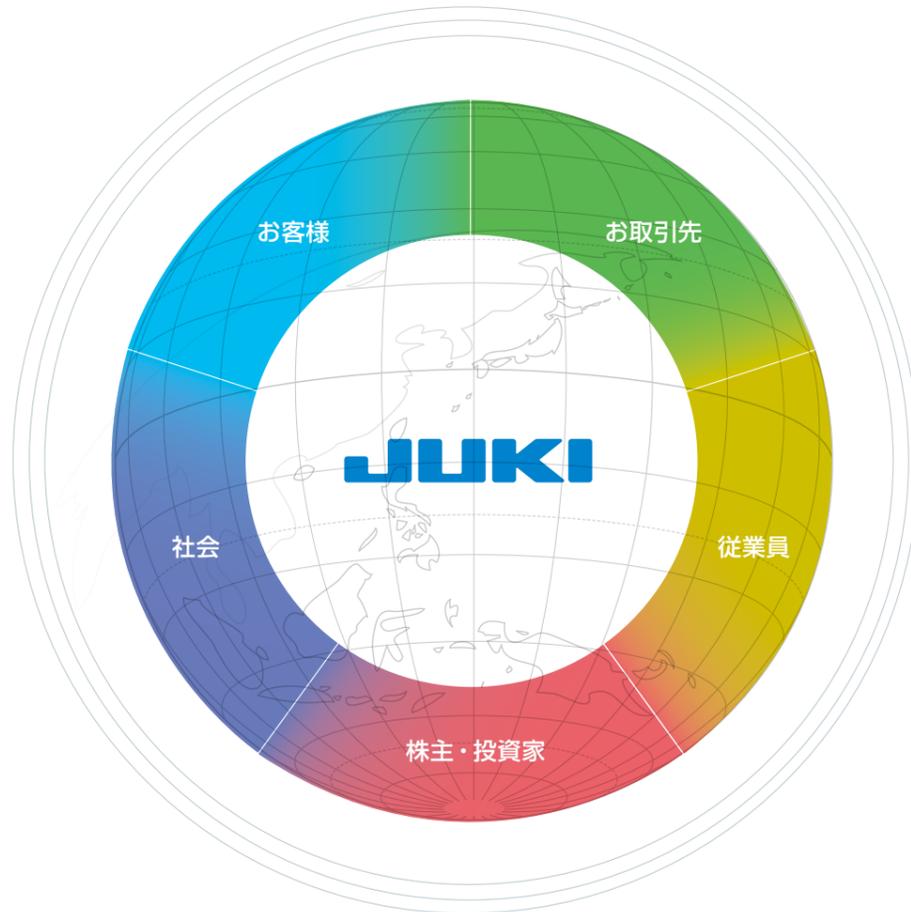
情報処理に特化したJUKI独自のシステム

データエントリー装置は、数値や文字などの大量のデータをスピーディーに入力できるように工夫された装置です。生命保険会社、銀行など大量の情報を処理する業界の「機密情報や個人情報の保護」、「OCR処理と連携したイメージエントリーの効率向上」、「高速通信インフラを利用したデリバリーレス」など、情報処理産業のニーズに対応するため、処理機能強化や人的ミスを軽減する装置の開発を進めています。



ステークホルダーとの関わり

ステークホルダーに配慮した企業活動を行い、互いの利益を実現させることが、企業価値の向上につながると考えています。
私たちは、全てのステークホルダーに必要とされる企業を目指します。



お客様

JUKIグループが提供する商品やサービスを末永くご利用いただくことで、お客様にとっての生涯価値を最大限に高められるよう努めています。



お取引先

お取引先との「共存共栄」という観点から、互いに切磋琢磨し成長していける関係の構築に努めています。



従業員

事業展開するそれぞれの国で、従業員がいきいきと働ける組織・風土を確立し、ES（従業員満足）の向上をはかっています。



株主・投資家

財務体質のさらなる改善と株主価値の向上をはかるとともに、安定的な配当を実施するよう努めています。



社会

良き企業市民として地域・社会との交流を深めるとともに、環境問題に真摯に取り組むことで、社会的に価値があり魅力のある企業となることを目指しています。

お客様とともに

JUKIはお客様との接点を増やし、お客様に満足いただける商品・サービスを提供し続けます。
また、安全、高品質で末永く使える製品を提供するとともに、世界中のお客様へのサポート体制を充実させています。

ミシン常設ショールーム（ソーイングセンター）

JUKIのソーイングセンターは、1977年11月にミシン業界初のミシン常設ショールームとして開設され、国内・海外から多くのお客様にご来場いただいています。
2015年4月時点のご来場者数は、国内から60,211人、海外から11,148人を数えます。
2015年1月には、JUKIが提唱するラインソリューションに対応して、縫製製品（布帛、シューズ、カバンなど）ごとにリニューアルしました。お客様の用途に合った工業用ミシンのラインアップを前に専門のスタッフがお客様の課題解決に対応しています。



ワークショップ・講習会

家庭用ミシンの展示会では製品の展示に加え、ワークショップ、技術指導も積極的に行い、ソーイングの楽しさを広げています。このようなワークショップは年70回ほど開催され、毎回予約がいっぱいになるほど大盛況です。
また、JUKI本社にて定期的に「JUKIミシンスタジオ」を開催し、お客様がお持ちのミシンの使い方を丁寧に説明しています。



ワークショップ

JUKIミシンスタジオ

サポート体制

JUKI産業装置事業の手厚いサポート体制を支えるのは「お客様の製造ラインを止めてはいけません」という熱い思いです。
目標は、マシントラブルへの24時間以内の対応です。強固なサポート体制を構築し、不測の事態にも柔軟に対応し、365日、世界中のお客様に安心をお届けし、信頼を得ています。



品質保証

JUKIブランドを使用されているお客様からの期待に応えるべく、個々の製品提供活動はもとより、ビフォー・アフターサービスをして、多くのJUKI関係者が日々活動しています。
JUKIは創業以来、品質を軸としたものづくりに取り組み、1981年にはデミング賞を受賞しました。この品質重視の考え方は今日まで受け継がれ、JUKIの品質経営を支えています。
2014年は新製品開発における品質造り込みへの仕組み構築と、拡大している海外製造拠点の品質保証体制の改革を行いました。さらに、これまでは各生産拠点の品質保証部門が行っていた製品品質の監査を、本社の品質保証部門に移し、お客様からのご意見・ご要望を分析した上で、出荷直前の製品検査や、造り込みプロセスの確認による品質不良の再発防止や発生未然防止活動状況を監視・監査する仕組みにしました。
今後も品質の維持・向上に主眼をおいたレベル向上活動を行い、お客様にご満足いただける製品とビフォー・アフターサービスを展開していきます。

製品安全の取り組み

JUKIグループでは、お客様に製品を安全・安心してご使用いただくことを、CS（顧客満足）の中で最も重要な項目の1つと捉え、大きく2つの取り組みを行っています。
1つ目は、製品の開発段階から「製品安全規定」に基づき、お客様の安全確保を最優先とし、事故の未然防止・再発防止の徹底を重点的に推進することです。
2つ目は、グローバル企業として機械製品の安全・安心に対する世界的な市場ニーズの高まりと、それに伴う各国・地域の法規制・制度・規格の変化（法規制・制度改正と規格改定情報）を収集し、迅速な対応をはかることです。

お取引先とともに

JUKIグループは、地球企業の一員として、お取引先とともにグリーン調達を推進しています。公平で公正な取引に注力し、お取引先とともに技術力の向上に努め、共存共栄を目指しています。また、説明会や研修会を通して、お取引先とのコミュニケーションを強化しています。

調達方針

お取引先の選定にあたっては、「取引先審査表」による公正な評価を行っています。また、国内外を問わず、「JUKIが要求する品質・コスト・納期の条件を満たすこと」に加え、法令や社会規範の順守、基本的人権の尊重、「JUKIグループグリーン調達ガイドライン」への適合、労働安全衛生への取り組み、知的財産保護への取り組みなどを評価し、お取引先を決定しています。



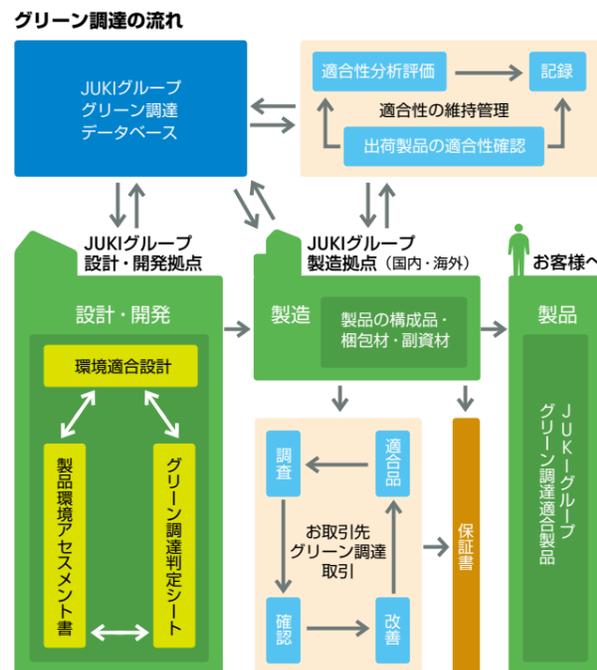
お取引先とのコミュニケーション

JUKIでは年3回の交流会を開催し、お取引先とのコミュニケーションをはかっています。毎年11月の品質月間に合わせた研修会では、JUKIの取り巻く環境と今後の方向性についての講演や、顕著な成績を収められたお取引先に「感謝状」の贈呈と「保証納入認定書」の交付を行っています。2014年は、国内外のお取引先98社、101名にご参加いただき、10社に感謝状を贈呈し、10社に保証納入認定書を交付し、お取引先との協力関係維持強化に努めています。



グリーン調達

JUKIグループでは、「ECO MIND宣言」に基づいて、地球環境にやさしい環境保全活動に、お取引先とともに取り組んでいます。環境負荷の少ない材料・部品・製品などを優先的に調達・購入することは、有害化学物質の削減になります。2011年からは物質管理の手段として、サプライチェーンを基本にした業界標準のJAMP AIS調査ツールを取り入れて、国内外の拠点で活動を展開しています。また、製造拠点においては、それらの入荷時に有害化学物質分析を行うことで、万一の有害物質混入を防いでいます。今後も企業活動に対して、法規制強化など、環境問題に対する社会的責任や要求は高まると考えられます。グリーン調達を重要な課題と位置づけ、欧州REACH規制やCLP規則など、追加管理対象物質に対応した出荷品の適合活動を行い、各国の規制に対応していきます。



従業員とともに

JUKIグループが目指すのは、国籍・人種・性別・年齢を超えて「雇用と成長」の機会を提供するグローバル企業です。国内外を問わず、多様な人材の活躍を可能とする教育制度や、働きやすい環境づくりを通じて、事業発展と社員満足度の向上に努めています。

グローバル人材の育成

●中国グループ経営幹部育成研修の実施
中国での現地幹部社員育成と、グループ会社間の交流を目的として「MTP (Management Training Program) 研修」を行っています。2014年には、中国グループ会社6社（重機（中国）投資(有)、重機（上海）工業(有)、新興重機工業(有)、上海重機ミシン(有)、重機（寧波）精密機械(有)、東京重機国際貿易（上海）(有)）から推薦された経営幹部候補者が参加し、マネジメントの基礎や良好な管理を実現する実践方法を体系的に学びました。



●海外グループ製造会社の研修の実施

大田原工場では、海外製造グループ会社幹部を対象に、「マネジメント研修」「専門技術研修」を行っています。実際にマザー工場である大田原工場を見学し、技術に触れるだけでなく、自社工場の課題を自ら明確にし、改善計画の立案を行います。日本メーカーの5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の事例や安全衛生を学び、今後、自社工場で開催することにより、高品質な製品の製造に役立てていきます。



働きやすい環境づくり

●女性が働きやすい環境づくり
働く女性のワークライフバランスを考え、育児・介護休業法の定める範囲を大幅に上回る、小学校卒業まで短時間勤務制度が利用できるようになっています。また、JUKIでは海外でのビジネスが多く、国内にも複数の事業所があるため、転居を伴う転勤や出向、応援の必要性が増しています。しかし社員のさまざまな事情を考慮し、転勤や出向をしなくても力を発揮できるキャリアコース制度を2014年より導入しました。



●健康促進

2014年6月、国内外の事業拠点社員の就業状況・生活環境の管理と施策を専門に行う「厚生グループ」を人事部に新設し、社員の健康促進を進めていくことにしました。本社には、従業員の健康増進と自己啓発を目的とした「社員フロア」ができました。ここでは、卓球、エアロバイク、バランスボールなどの軽運動ができる設備を整え、さらにリクライニングチェアでの休憩、家庭用ミシンを使っている手芸などを楽しむことができます。またオープニングイベントでは、体力年齢測定を実施し、5日間で100人近くの人が参加しました。



株主・投資家とともに

JUKIグループは、株主や投資家の皆様への適時かつ正確な情報公開を通して、経営の透明性を高めていきたいと考えています。株主や投資家の皆様からいただいたご意見を参考に、ご期待に応えられるよう努めています。

IR説明会

JUKIはコミュニケーションを強化し、ステークホルダーの満足度を向上させることが重要と考えており、機関投資家を対象にした決算説明会を年2回開催しています。2015年2月16日、(株)日本投資環境研究所（中央区日本橋）9Fホールで開催し、「2014年12月期（2014年度）業績の概要」および「中期経営計画（2015-2016）の概要」について、説明を行いました。また、証券アナリストやファンドマネージャーなどの個別取材に対応するなど、積極的な対話に努めています。これらの活動を通じて得られたご意見やご要望は、貴重な判断材料として経営施策に反映させるよう努めています。



株主総会

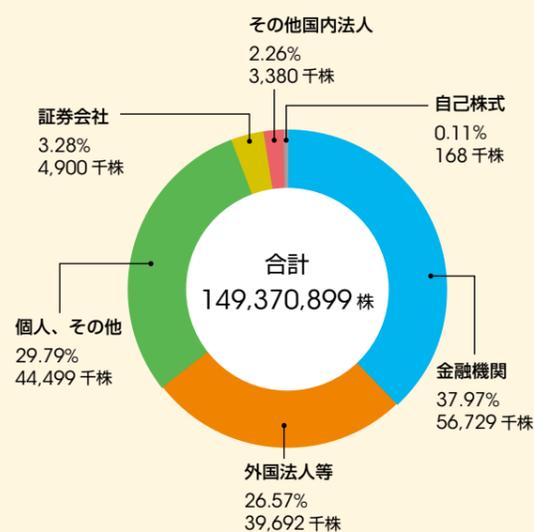
毎年3月に定時株主総会を開催し、より多くの株主様にご参加いただけるよう、集中日を避けるなどの工夫をしています。2015年3月26日には、JUKI本社において「第100回定時株主総会」を開催し、一般株主の皆様にも多数ご来場いただきました。また、株主総会終了後には、主力製品の見学会を実施し、出席された株主の皆様とのコミュニケーションを深めることができました。株主の皆様からいただいたご意見を今後の取り組みに反映させ、ご期待にお応えできるよう引き続き努力します。また、JUKIの事業についてより一層理解を深めていただくために、事業の概要と決算内容をまとめた「株主の皆様へ」を全株主様に年2回送付するとともに、ホームページの「個人投資家の皆様へ」において、タイムリーな情報提供を行っています。今後もJUKIの事業をより深くご理解いただけるように工夫していきます。

●大株主（上位10位）

| 株主名 | 持株数 (千株) | 持株比率 (%) |
|------------------------------------------------------------|-------------|-------------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口） | 13,473 | 9.02 |
| BNYM SA/NV FOR BNYM CLIENTACCOUNT MPCJAPAN (常任代理人 株式会社) | 6,838 | 4.58 |
| JP MORGAN CHASE BANK 380634 | 5,826 | 3.90 |
| 株式会社みずほ銀行 | 4,690 | 3.14 |
| 資産管理サービス信託銀行株式会社（証券投資信託口） | 3,788 | 2.54 |
| 日本生命保険相互会社 | 3,660 | 2.45 |
| 日本スタートラスト信託銀行株式会社（信託口） | 3,511 | 2.35 |
| 朝日生命保険相互会社 | 2,845 | 1.90 |
| 第一生命保険株式会社 | 2,558 | 1.71 |
| 大田 宣明 | 2,402 | 1.61 |

2014年12月31日現在

●株式の所有者別分布状況



社会とともに

JUKIグループは、世界に広がる販売ネットワークにより約180カ国のお客様と取引しています。世界各国において、それぞれの地域および社会と良好な関係を築くことができるよう、JUKIグループ各社とともに取り組んでいます。

社会科見学の受け入れ

東京都多摩市への本社移転をきっかけに、地域社会とより良い関係を築けるようにと始まった、近隣の小学5年生の社会科見学の受け入れも、2014年で5年目を迎えました。2014年は9月と10月に、多摩市の南鶴牧小学校と大松台小学校の5年生173人が来社し、屋上庭園・食堂・中央監視室・ショールームなどを見学されました。家庭用ミシンを使ったものづくり体験では、各自が好みの模様と名前を入れた巾着袋を製作されました。学校で行う家庭科の縫製授業の事前練習の場にもなっています。



インターンシップ

大田原工場では、近隣の高校生のインターンシップ生を受け入れています。この制度は、高校生の勤労観や職業観を育成することを目的に、生徒が在学中に進路に関連した就業体験を約1週間行うものです。大田原工場では制度が開始された2003年より栃木県立那須清峰高等学校の生徒を受け入れ、地域社会と次世代の育成に貢献しています。



異文化交流

2014年8月に、「ワールドキャンパス多摩（NPO法人）」の海外留学生総勢30人の会社訪問を受け入れました。参加された留学生の出身国は、アメリカ、カナダ、ノルウェー、オランダ、スウェーデン、中国など9カ国でした。ショールームの見学をされたあと、家庭用ミシンを使ってポケットティッシュのケース作りを体験するなど、異文化交流を深めました。



地域清掃活動

JUKI電子工業(株)では、清掃活動を通じた社会貢献を行っています。2014年6月21日朝7時から会社周辺の清掃を行いました。今年は昨年を上回る44人が参加し、道路沿いの路肩縁石付近にたまった泥の除去、歩道・路肩に生えた草取り、ごみ拾い、学童の通学路を清掃しました。また2014年9月には、JUKI吉野工業(株)と合同で、真人公園の清掃活動を実施しました。これからも地域社会とともに歩む企業として、社会貢献活動を自主的に展開していきます。



品質経営を支える取り組み

品質保証の取り組み

開発から技術サポートまで一貫して、お客様に満足していただける品質の造り込みを行っています。

開発



開発では、どのような環境下でも稼働できるように、熱、振動、電磁放射などの負荷を仮想的に発生させた試験を繰り返し行い、品質にこだわった製品作りを行っています。

製造



製造では、一人ひとりが「自工程完結」をキーワードに、毎朝のネジ締め検定など、自社独自の検定制度で高い製造力を維持し、「100%良品生産」に取り組んでいます。

技術サポート



技術サポートでは、プラント設計、装置のセットアップなどのピフォーサポートから、迅速な部品供給や定期的なメンテナンスなどのアフターサポートまで、ハイレベルなサポートを提供しています。

QC活動

JUKIグループでは、品質経営の一環として、製造工場を中心に全員参加で行うQCサークル活動を行っています。また、方針に基づいたテーマを抽出し、改善活動に取り組んでいます。

QCサークル活動（ボトムアップ）



国内・海外のグループ製造会社14拠点において、QCサークル活動を行っています。その成果は毎年11月に世界大会として発表しており、海外からも中国やベトナムのサークルが参加しています。ボトムアップ活動の原点となるQC活動の進め方、手法を駆使し、知恵を出し合い、品質管理の定着に結びつけています。

テーマ活動（トップダウン）



JUKIグループのマザー工場である、大田原工場・JUKI電子工業㈱を中心に、各グループ製造会社で品質保証体系を整備しています。また品質方針を展開し、自部門での品質目標を設定し、品質問題の改善活動に取り組んでいます。

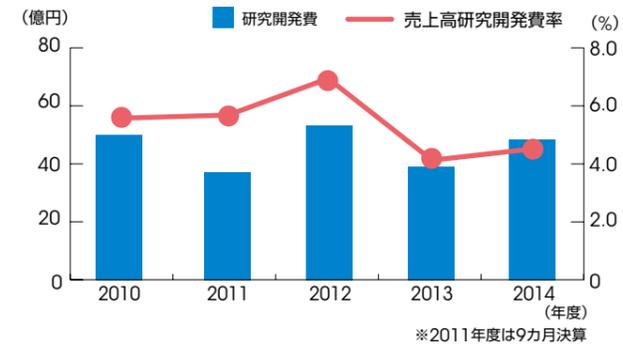
イノベティブな取り組み

開発投資と工場のスマート化

持続的にイノベーションを起こすための取り組みを行っています。

開発投資について

開発投資はメーカーが成長していくための生命線であり、JUKIは売上高の4%～7%を継続的に開発に投資しています。また、お客様の潜在的なニーズに応えるイノベーションを継続的に生み出すため、先端開発へも積極的な投資を行い、さらなる成長を目指しています。



工場のスマート化



組み付けの手順がセルごとに画面で指示されるデジタルセル生産の導入や、塗装の自動化・自動搬送など、製造工場のスマート化に取り組んでいます。

活気のある人と組織

JUKIでは従業員をかけがえのない大切な財産であると考えています。性別、国籍、年齢などの枠を越えて、人材育成・活用に努めています。

女性管理職比率 **4%**



JUKI㈱の女性管理職比率は、4%となっています。海外グループ会社においても、部長級管理職として女性が活躍しています。将来にわたって女性が健康で安心して働ける職場環境の整備を引き続き行い、高い志を持つ社員が、当たり前活躍できる企業を目指していきます。

海外従業員比率 **59%**



JUKIグループ従業員数6,153人の内、59%が海外従業員となっています。すでに海外の販売会社では、役員に就いている人もいます。今後も現地人材の採用・育成を積極的に行い、従業員のグローバル化を展開していきます。

技能検定資格取得者人数（国内） **843人**



国内の製造拠点で技能検定資格を取得している従業員は、延べ843人（特級：18人、1級：201人、2級：624人）となっています。JUKIのものづくりは「人」づくりです。JUKIでは技能検定による技能資格取得の推進や社内検定などで、各製造工程における要素作業技術の維持・向上をはかっています。

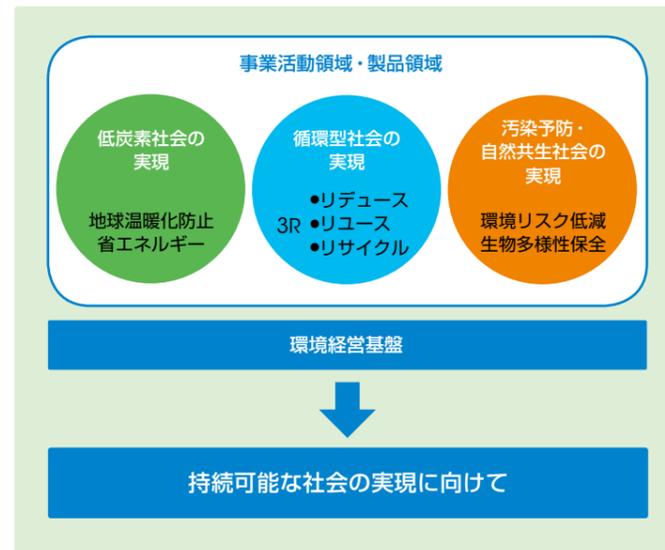
環境ビジョン

環境に配慮したものづくりを通じて、 お客様、地球環境に貢献していきます

JUKIグループでは、ものづくり企業として地球環境を大切に、資源の有効活用、リサイクル、省エネルギーに積極的に取り組んでいます。さらに安全で環境負荷の少ない製品をお客様に提供し、地域の産業発展に貢献することで、お客様をはじめとして広く社会の皆様から信頼され、社会にとって存在価値のある会社であり続けることを目指します。

JUKIグループ環境保全活動の考え方

JUKIグループは、持続可能な社会の実現に貢献すべく、「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」、「汚染予防・自然共生社会の実現」という3つの領域で環境経営を実践しています。これらを全てのステークホルダーに、より具体的に示すため、「環境理念」と「環境行動指針」からなる「ECO MIND宣言」を行っています。「ECO MIND宣言」とは、JUKIのコーポレートスローガン「Mind & Technology」を構成するMindの「品質」、「顧客満足」、「人間性尊重」に、「環境」を加えることです。これに基づいて、JUKIグループが具体的に環境への取り組みを進めるための指針「環境保全ガイドライン」を策定し、JUKIグループとしての環境保全活動を実践しています。また、情報交換や水平展開を行い、グループ全体のレベルアップをはかっています。



ECO MIND宣言

環境理念

JUKIグループは、企業活動が広く地球環境と密接に関わっていることを認識し、

1. 環境に配慮した企業活動により、地域と社会に貢献する。
2. 環境にやさしい製品を世界の人々に提供する。
3. 持続的な活動を通じて、よりよい地球環境を次世代にひきつぐ役割を果たす。



環境行動指針

1. 事業活動全般にわたって省エネルギーを推進し、地球温暖化防止に努める。また3R（リデュース・リユース・リサイクル）の実践により資源の有効利用を図る。
2. 環境への影響に配慮した企画、研究、開発、調達、生産を行い、より環境負荷の少ない製品を提供する。
3. グローバル企業として、事業展開する全ての国や地域の特性に応じた環境保全活動を通して、その国や地域に貢献する。
4. 環境関連法規制及び同意するその他の要求事項を順守するとともに、環境汚染を予防する。
5. 環境情報の公開を積極的に行う。
6. 教育・啓発活動を通じ、社員一人ひとりは「環境意識」の向上を図り、環境保全活動を実践する。

トピックス

本社ビル環境配慮設計

2009年12月よりJUKIグループの新しい拠点として稼働した本社ビルは、環境と省エネルギーに配慮した設計となっています。エネルギー使用量をエネルギー種別（電気・ガス・水道）・用途別・ゾーン別に計測把握し、運用改善を行えるシステム（BEMS）を採用。雨水処理装置や高断熱複層（Low-E）ガラスなど、省エネルギー設備・システムも導

入しました。その環境性能はCASBEE（建築環境総合性能評価システム）の「Aランク」相当の評価を得ています。また環境面だけでなく、人と人が自然にコミュニケーションを取れるような空間設計など、使いやすさも考慮しています。

雨水の活用

屋根面への降雨を集水し、雨水を砂ろ過滅菌処理したあと、トイレ洗浄水や構内植栽への散水などに利用しています。

屋上・構内緑化の推進

屋上や構内をできる限り緑化（東京都の緑化基準面積の約2.5倍）することで、建物の断熱性を高め、ヒートアイランド現象抑制に貢献しています。敷地境界より立体化した緑化を行うことで、近隣に対しても緑あふれる景観を創出しています。また緑化によって従業員は疲れを緩和したり精神的安らぎを得ることができ、従業員にとっても快適な環境を実現しています。

自然光の利用

トップライトを設置。自然光をより多く取り入れることで省エネルギーに貢献するとともに、地階の執務環境の改善をはかっています。

日射遮へい

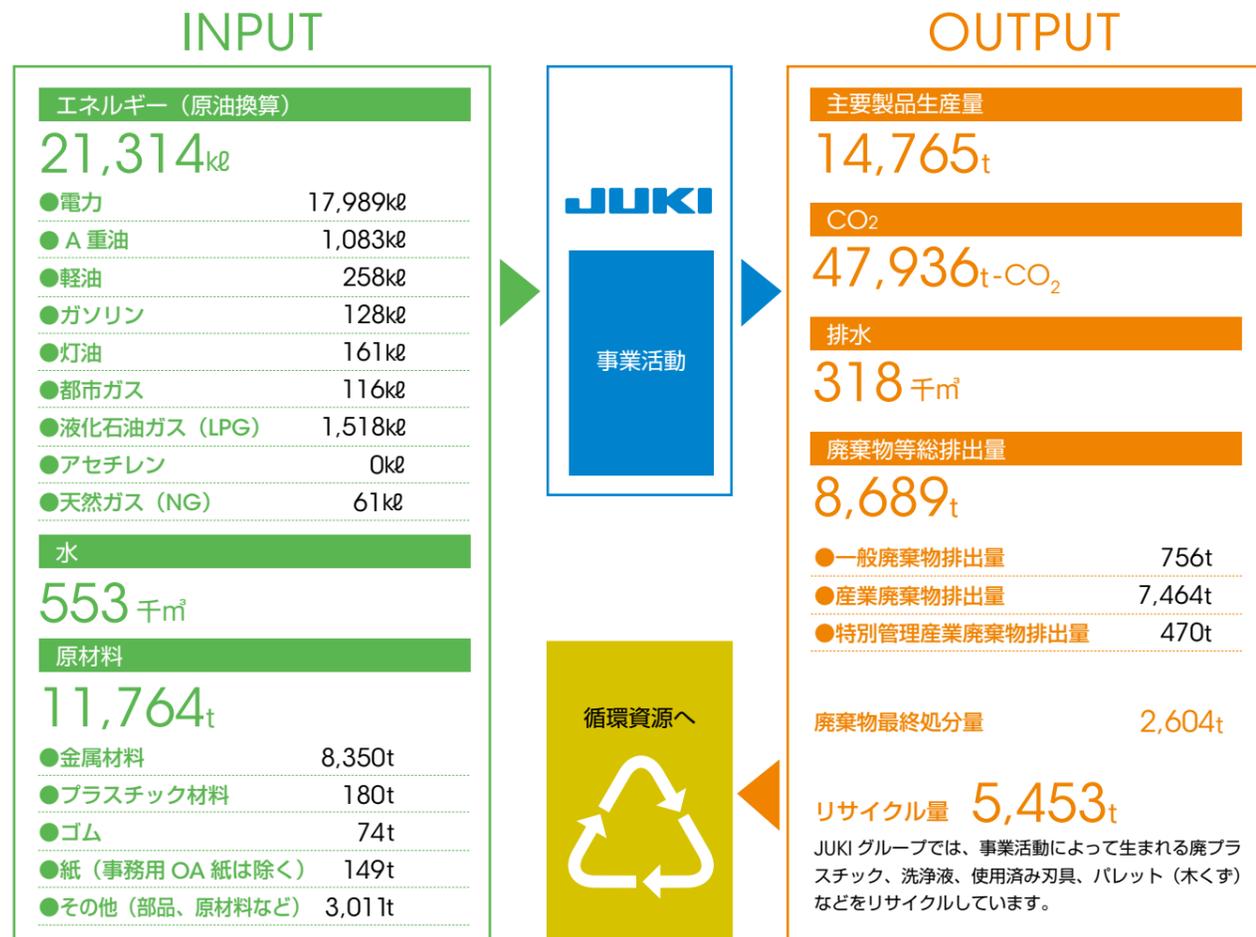
高断熱複層（Low-E）ガラスの採用により、日射負荷を抑制し、空調負荷低減を実現しています。また、外壁およびガラス部分に酸化チタンコーティングを塗布し、自然光および雨水による自浄作用を促し、自然エネルギーを活用しています。

照明制御

高効率で寿命の長いHf蛍光灯を主体とし、調光センサーによる状態に応じた調光制御で必要な明るさを確保しつつ、省エネルギー化をはかっています。

事業活動における環境への影響

JUKI製品は、部品や材料に貴重な資源を使用し、多くのエネルギー・資源を使って製造されています。このためJUKIグループでは、事業に関連する環境負荷を明らかにして、環境パフォーマンスの改善を進めています。



※このデータはJUKIと国内・海外製造グループ会社の2014年度データについてまとめたものです。
※原材料については、一部把握できていないグループ会社もあります。

INPUT

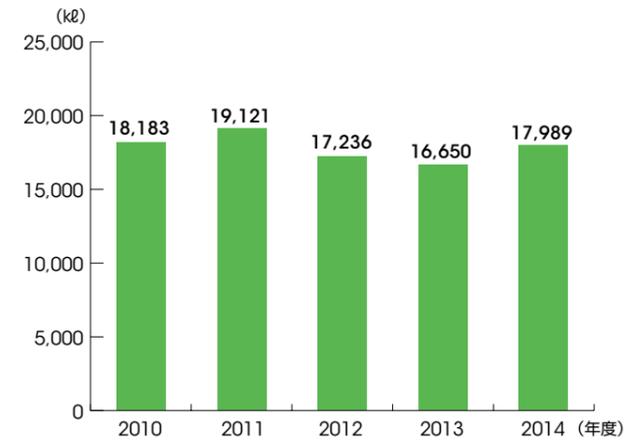
- 原油換算**：異なるエネルギー量を共通の尺度で比較するために発熱量を用いて、原油の量に換算したもの
- 電力**：工場やオフィスで使用する電力会社からの購買電力
- A重油**：塗装施設の乾燥炉など、設備を動かすために使用
- 軽油**：トラックの燃料
- ガソリン**：社用車の燃料
- 灯油**：暖房用（温風機）の燃料
- 液化石油ガス**：常用発電機の燃料
- アセチレン**：設備修理時、鉄板切断やガス溶接の燃料
- 天然ガス**：食堂での調理や浴室給湯などの燃料
- 金属材料、プラスチック材料、ゴム**：部品の材料
- 紙**：輸送用ダンボール、製品の梱包、荷崩れ防止用および製造工程での製品の打コン防止用

OUTPUT

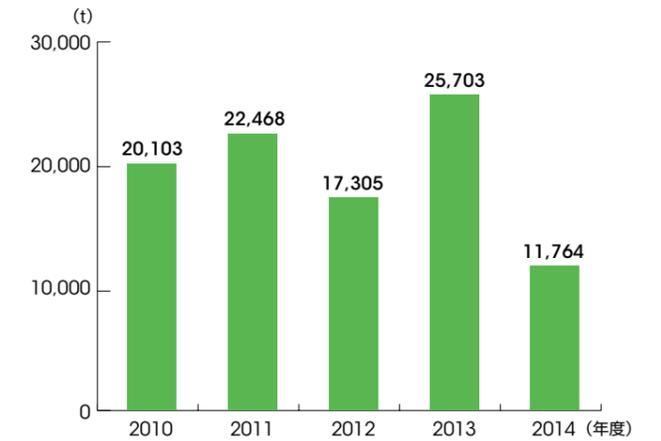
- CO₂**：電気や燃料の使用に伴い発生
- 一般廃棄物**：家庭や企業などから排出される廃棄物のうち、産業廃棄物以外のもの。ここでは事業活動の中で排出される生ごみなどの生活ごみや、紙ごみなどを含む
- 産業廃棄物**：工場などの事業活動に伴って排出される廃棄物のうち、法律で定められた20種類の廃棄物。鋳物に使用した廃砂、パレット（木くず）、切削油、開発製品の試験研究に使用した試作機などを含む
- 特別管理産業廃棄物**：産業廃棄物の中で、爆発性、毒性、感染性が高く、人の健康や生活環境に被害を生ずる恐れがあるもので、特に厳重な管理が必要。古いコンデンサなどに含まれるPCBなど
- 最終処分**：廃棄物でリサイクルできないものを埋立処理すること
- リサイクル**：資源として再生して有効利用すること

主なINPUTの推移

電力（原油換算）

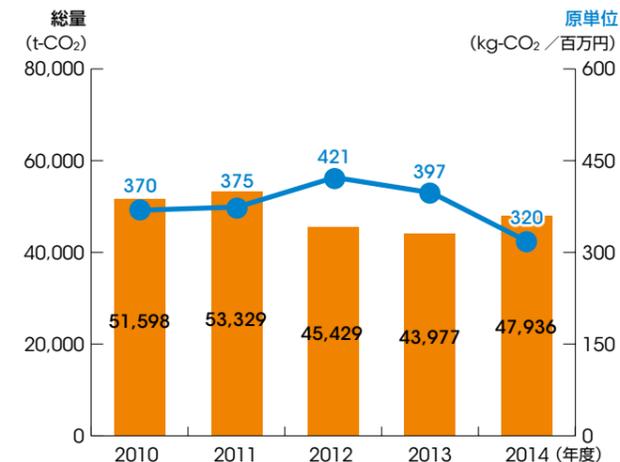


原材料

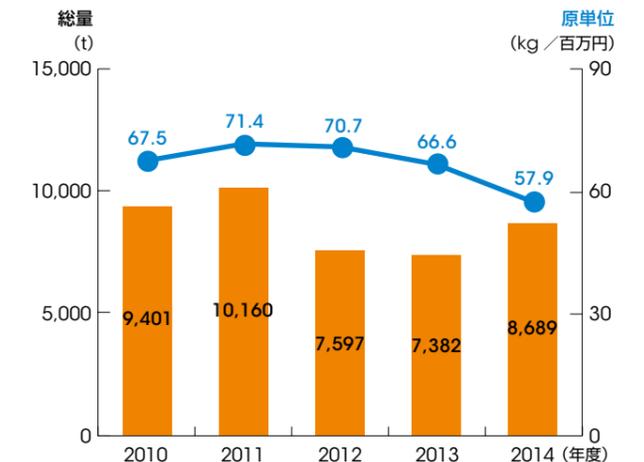


主なOUTPUTの推移

CO₂ 排出量



廃棄物等総排出量



JUKIグループではCO₂排出要因の8割以上を占める電力使用量を削減するため、生産方法や設備稼働時間の見直しをはじめ、さまざまな取り組みを行っています。2012年度以降、売上高CO₂排出量（原単位）は着実に減少し、環境負荷の低減に努めています。

ものづくりの現場では、多くの原材料を使用して日々生産活動を行っています。その過程で排出される廃棄物量を低減すべく、JUKIグループの製造拠点では、廃棄物自体を削減する取り組みや、廃棄物のリユース・リサイクルとして有価取引を推進するなど、さまざまな取り組みを行っています。これらの活動により売上高廃棄物量（原単位）の低減に努めています。

トピックス

JUKI電子工業(株)での省エネルギーの取り組み

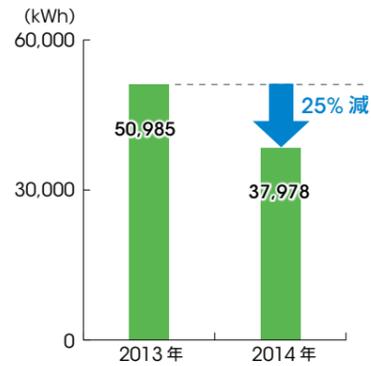
JUKI電子工業(株)では、2014年に大きく3つの省エネルギーの取り組みを行いました。

1つ目は、省エネルギータイプのコンプレッサー導入による消費電力の削減です。この設備導入により消費電力は約25%削減され、10月～12月の3カ月間で約13,000kWhの削減効果をあげました。

2つ目は、冬場に利用する軒先ヒーターの使用方法を、温度センサーによる制御管理からタイマーによる手動制御管理に切り替えました。この方法により、年間約22,300kWhの削減効果をあげました。

3つ目は、工場事務所の蛍光灯の、LED照明への変更です。87本のLED照明の設置と間引きの実施により、年間約8,300kWhの削減効果をあげました。

省エネルギータイプのコンプレッサー導入による消費電力削減 (10月～12月)



コンプレッサー

重機(上海)工業(有)の環境活動

重機(上海)工業(有)では、2007年4月にISO14001取得直後から、社員の環境意識向上と環境問題の改善をはかって「環境委員会」を発足させ、従業員一丸となって環境活動を推進しています。

環境意識向上の取り組みとしては、環境知識コンテスト、ごみ分別教育、水環境保護展覧会見学、廃棄物処理メーカー見学などを実施しました。また、環境改善活動としては、テトラパック回収による事務用紙交換活動、植樹、ノーカーデー、食べきり運動などを継続して実施しています。

これらの活動は、社員の環境に対する意識向上だけでなく、チームワークの強化にもつながっています。



植樹



食べきり運動

JUKI(株)大田原工場の省エネ診断

大田原工場は、「第2種エネルギー管理指定工場」に該当しますので、年1%以上のエネルギー使用の合理化に取り組んでいます。

2014年12月、省エネルギーセンターの専門家のアドバイスを受けてさらなる合理化をはかるため、「省エネ診断」を受診しました。

今回の診断では、使用エネルギーで電力の次に多い重油燃料について、ボイラーや重油暖房などの空気比の調整による省エネルギー化などのアドバイスをいただきました。

今後の設備投資計画や運用の管理標準などに落とし込んで、さらなる合理化をはかっていきます。



2014年の「JUKI ECO PRODUCTS」

JUKIでは製品ライフサイクル全般において、環境に配慮した製品作りを行っています。操作性・メンテナンス性の向上、高い性能の追及、省電力・省エネの同時追求など、開発段階で環境に関する38項目の評価を行います。

その結果、特に高いレベルで環境配慮を実現した製品を「JUKI ECO PRODUCTS」として認定しています。



2014年の主な「JUKI ECO PRODUCTS」



DDL-900A

新ドライオイルパンシステムを使った本縫いドライミシンです。

●従来機種比で25%の省電力化



LK-1903B/BR35

ボタンフィーダーが付いたボタン付けミシンです。

●従来機種比で15%の省電力化



LU-2868-7

ソファなどの家具縫製などに活躍するミシンです。

●従来機種比で騒音を3.5dB低減、37%の省電力化



MF-7900D H25

スライディング押さえによる、ソフトな縫いを実現したミシンです。

●従来機種比で27%の省電力化



HZL-F700

キルター向けの家庭用ミシンです。
※海外展開製品



HZL-VS200シリーズ

工業用ミシンの技術を応用した家庭用ミシンです。

役員紹介 (2015年5月1日現在)

取締役



清原 晃
代表取締役社長
兼 JUKIオートメーションシステムズ㈱代表取締役社長



中村 宏
取締役常務執行役員
「開発センター (技術企画部) 担当」
兼「管理センター (人事部、総務部) 担当」
兼「秘書室担当」
兼「監査部担当」
兼「内部統制・コンプライアンス担当」
兼「業界団体担当」



宮下 尚武
取締役常務執行役員
「事業センター (縫製機器ユニット、家庭用ミシンユニット) 担当」
兼 縫製機器ユニット長 兼 スマートソーイングシステム部長
兼 重機 (中国) 投資有限公司董事 兼 販売総経理



永嶋 弘和
取締役
兼 JUKIオートメーションシステムズ㈱取締役専務執行役員
兼 東京重機国際貿易 (上海) 有限公司董事 兼 総経理



尾崎 俊彦
社外取締役



長崎 和三
社外取締役

監査役

大竹 義博
常勤監査役

井上 皓介
社外監査役

田中 昌利
社外監査役

常務執行役員

内梨 晋介

和田 稔

後藤 博文

野々村 雅彦

執行役員

本間 君雄

見浦 利正

篠塚 寿信

濱 学洋

Robert J. Black Jr.

二瓶 勝美

小西 浩樹

高橋 喜久雄

浜外 剛重

新田 実

JUKIグループのコーポレート・ガバナンス運営体制

ガバナンス体制の充実、コンプライアンスの強化に努め、透明性の高い経営を目指します。

コーポレート・ガバナンス

JUKIは、経営の健全性・効率性を確保する観点から、コーポレート・ガバナンス体制の適切な維持・運用を最重要課題の一つと位置づけ、その整備と充実に努めています。

2014年3月に社外取締役を1名から2名に増員し、取締役および取締役会の経営監視機能を高め、社外からの意見を積極的に取り入れる体制を強化しています。

また、取締役会の下に経営戦略会議を組織しました。取締役をはじめ担当執行役員や担当部門責任者が会議に出席し、経営に関する基本方針や戦略などについてさまざまな角度から審議することで、より適切な意思決定および業務の執行が可能となっています。

リスク管理体制としては、リスク管理会議、危機対応タスクフォースを設置しています。

内部監査の組織としては、監査部を設置し、当社各部門および子会社に対する業務監査を行っています。また監査役監査は、監査役会が定めた監査方針や業務分担などに従い、監査部および会計監査人と連携を取りながら実施しています。監査役を補佐する組織としては、監査役室を設置しています。

コンプライアンス

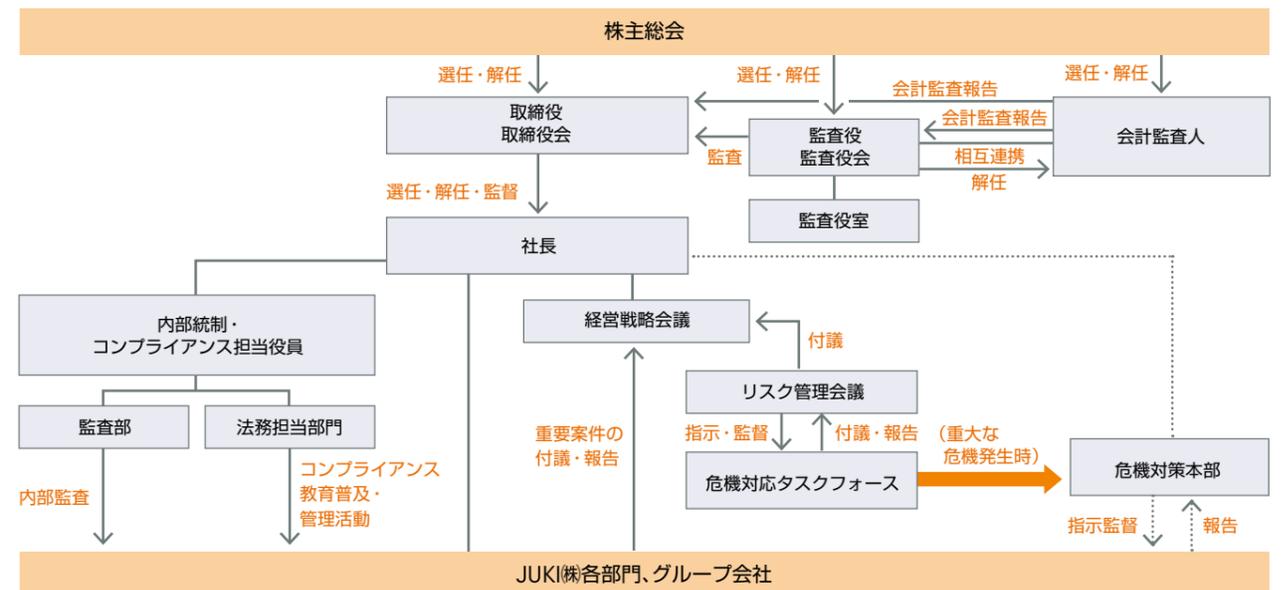
JUKIグループは、お客様をはじめとして広く社会の皆様から信頼され、社会にとって存在価値のある企業グループであり続けることを目指して、コンプライアンスを重要な経営基盤と位置づけています。JUKIの従業員はもちろんのこと、グループ会社の役員および従業員は、法令順守や良識を持った行動などについて解説されている「JUKIグループ社員行動規範「10カ条」」に則って行動するよう、徹底しています。従業員からの相談・疑問などに対しては、JUKIおよびグループ会社に相談窓口を設置して迅速に対応。また、コンプライアンスに関わる重要なリスクについては、リスク管理会議において管理しています。

リスクマネジメント

JUKIグループではリスク管理体制として、リスク管理会議を設置しています。リスク管理会議では、全社的なリスクおよび重要リスクを管理し、必要な場合はリスク低減のための改善対策を取ることを指示しています。また、天災、火災や爆発、PL (製造物責任) に関する問題、工場廃水による環境問題などの危機の発生 (リスクの顕在化) に備え、危機対応タスクフォースを設置し、対応措置を検討、実行できる体制を整備しています。

また、重大な危機が発生した場合には「危機対策本部」を設置し、迅速な危機対応を行います。

コーポレート・ガバナンス体制図



2年間の主要財務・非財務データ（連結）

| | (単位：百万円) | |
|--------------------------|---------------------|---------------------|
| | 2013年度 2013年12月期 | 2014年度 2014年12月期 |
| 損益状況（会計年度） | | |
| 売上高 | 94,385 | 107,581 |
| （海外売上高比率） | (83.8%) | (84.1%) |
| 売上総利益 | 26,291 | 33,503 |
| 営業利益 | 5,151 | 8,217 |
| 経常利益 | 3,878 | 7,710 |
| 当期純利益 | 3,006 | 6,058 |
| 設備投資額 | 1,062 | 1,964 |
| 減価償却費 | 2,940 | 3,115 |
| 研究開発費 | 3,859 | 4,826 |
| 財政状態（事業年度末） | | |
| 総資産 | 113,189 | 130,751 |
| 純資産 | 11,806 | 25,010 |
| 自己資本 | 11,432 | 23,994 |
| 財務指標 | | |
| 自己資本比率 | 10.1% | 18.4% |
| 自己資本当期純利益率（ROE） | 37.4% | 34.2% |
| キャッシュ・フロー状況（会計年度） | | |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 6,405 | 3,459 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 293 | △1,868 |
| フリーキャッシュ・フロー | 6,698 | 1,591 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △9,445 | 837 |
| 1株当たり情報 | | |
| 1株当たり当期純利益（EPS） | 23.27円 | 43.83円 |
| 1株当たり配当金（DPS） | — | 4.00円 |
| 1株当たり純資産額（BPS） | 88.48円 | 160.82円 |
| 非財務データ | | |
| 従業員数 | 5,872人 | 6,153人 |
| 海外従業員比率 | 58.8% | 59.1% |

連結貸借対照表

| | (単位：百万円) | | | (単位：百万円) | |
|---------------|---------------------|---------------------|---------------|---------------------|---------------------|
| | 2013年度 2013年12月期 | 2014年度 2014年12月期 | | 2013年度 2013年12月期 | 2014年度 2014年12月期 |
| 資産の部 | | | 負債の部 | | |
| 流動資産 | | | 流動負債 | | |
| 現金及び預金 | 6,254 | 9,491 | 支払手形及び買掛金 | 11,875 | 13,892 |
| 受取手形及び売掛金 | 24,879 | 31,275 | 短期借入金 | 53,074 | 52,492 |
| 商品及び製品 | 32,841 | 37,685 | 1年内償還予定の社債 | 10 | — |
| 仕掛品 | 4,211 | 4,230 | リース債務 | 348 | 207 |
| 原材料及び貯蔵品 | 7,275 | 8,332 | 未払金 | 1,561 | 1,906 |
| 繰延税金資産 | 1,788 | 3,050 | 未払費用 | 3,097 | 3,343 |
| その他 | 3,380 | 4,303 | 未払法人税等 | 873 | 913 |
| 貸倒引当金 | △1,125 | △579 | 賞与引当金 | 54 | 69 |
| 流動資産合計 | 79,505 | 97,789 | 設備関係支払手形 | 74 | 120 |
| 固定資産 | | | 為替予約 | 1,099 | 2,800 |
| 有形固定資産 | | | その他 | 780 | 1,354 |
| 建物及び構築物（純額） | 15,204 | 14,625 | 流動負債合計 | 72,850 | 77,101 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 2,996 | 3,324 | 固定負債 | | |
| 工具、器具及び備品（純額） | 974 | 1,116 | 長期借入金 | 21,655 | 21,751 |
| 土地 | 6,774 | 6,774 | リース債務 | 420 | 297 |
| リース資産（純額） | 638 | 428 | 退職給付引当金 | 5,217 | — |
| 建設仮勘定 | 25 | 35 | 役員退職慰労引当金 | 165 | 171 |
| 有形固定資産合計 | 26,614 | 26,304 | 退職給付に係る負債 | — | 5,270 |
| 無形固定資産 | | | その他 | 1,072 | 1,148 |
| 投資その他の資産 | 1,579 | 2,216 | 固定負債合計 | 28,531 | 28,639 |
| 投資有価証券 | 2,741 | 3,051 | 負債合計 | | |
| 長期貸付金 | 464 | 448 | 101,382 | 105,741 | |
| 長期前払費用 | 573 | 473 | 純資産の部 | | |
| 繰延税金資産 | 1,373 | 124 | 株主資本 | | |
| その他 | 1,772 | 1,841 | 資本金 | 15,950 | 18,044 |
| 貸倒引当金 | △1,436 | △1,500 | 資本剰余金 | — | 2,094 |
| 投資その他の資産合計 | 5,489 | 4,440 | 利益剰余金 | △2,304 | 3,754 |
| 固定資産合計 | 33,683 | 32,961 | 自己株式 | △60 | △62 |
| 資産合計 | | | 株主資本合計 | 13,585 | 23,831 |
| 113,189 | 130,751 | その他の包括利益累計額 | | | |
| | | | その他有価証券評価差額金 | 630 | 817 |
| | | | 繰延ヘッジ損益 | △23 | △3 |
| | | | 為替換算調整勘定 | △2,760 | △695 |
| | | | 退職給付に係る調整累計額 | — | 44 |
| | | | その他の包括利益累計額合計 | △2,153 | 163 |
| | | | 少数株主持分 | 374 | 1,015 |
| | | | 純資産合計 | 11,806 | 25,010 |
| | | | 負債純資産合計 | 113,189 | 130,751 |

連結損益計算書

(単位：百万円)

| | 2013年度 2013年12月期 | 2014年度 2014年12月期 |
|-------------------|---------------------|---------------------|
| 売上高 | 94,385 | 107,581 |
| 売上原価 | 68,094 | 74,078 |
| 売上総利益 | 26,291 | 33,503 |
| 販売費及び一般管理費 | 21,139 | 25,285 |
| 営業利益 | 5,151 | 8,217 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 134 | 160 |
| 受取配当金 | 142 | 102 |
| 受取手数料 | 187 | 163 |
| 為替差益 | — | 259 |
| その他 | 458 | 383 |
| 営業外収益合計 | 922 | 1,069 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 1,646 | 1,410 |
| 為替差損 | 348 | — |
| その他 | 201 | 166 |
| 営業外費用合計 | 2,195 | 1,576 |
| 経常利益 | 3,878 | 7,710 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 190 | 21 |
| その他 | 3 | 3 |
| 特別利益合計 | 194 | 24 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 36 | 82 |
| 減損損失 | 119 | 59 |
| 持分変動損失 | — | 5 |
| 特別退職金 | 1,481 | — |
| 特別損失合計 | 1,637 | 147 |
| 税金等調整前当期純利益 | 2,434 | 7,587 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 578 | 1,416 |
| 過年度法人税等 | — | 486 |
| 法人税等調整額 | △1,171 | △274 |
| 法人税等合計 | △592 | 1,628 |
| 少数株主損益調整前当期純利益 | 3,027 | 5,958 |
| 少数株主利益又は少数株主損失(△) | 20 | △100 |
| 当期純利益 | 3,006 | 6,058 |

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

| | 2013年度 2013年12月期 | 2014年度 2014年12月期 |
|----------------|---------------------|---------------------|
| 少数株主損益調整前当期純利益 | 3,027 | 5,958 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 409 | 186 |
| 繰延ヘッジ損益 | 113 | 20 |
| 為替換算調整勘定 | 3,323 | 2,100 |
| その他の包括利益合計 | 3,846 | 2,307 |
| 包括利益 | 6,873 | 8,266 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る包括利益 | 6,792 | 8,331 |
| 少数株主に係る包括利益 | 80 | △64 |

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 2013年度 2013年12月期 | 2014年度 2014年12月期 |
|-----------------------|---------------------|---------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前当期純利益 | 2,434 | 7,587 |
| 減価償却費 | 2,940 | 3,115 |
| 減損損失 | 119 | 59 |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少) | 366 | △523 |
| 賞与引当金の増減額(△は減少) | 20 | 12 |
| 退職給付引当金の増減額(△は減少) | △1,368 | △5,217 |
| 退職給付に係る負債の増減額(△は減少) | — | 5,410 |
| 受取利息及び受取配当金 | △277 | △262 |
| 支払利息 | 1,646 | 1,410 |
| 為替差損益(△は益) | 1,592 | 1,010 |
| 有形及び無形固定資産除売却損益(△は益) | △154 | 61 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | △210 | △3,785 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | 5,895 | △1,770 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | 1,053 | 1,519 |
| 割引手形の増減額(△は減少) | △12 | △49 |
| その他 | △4,940 | △1,982 |
| 小計 | 9,105 | 6,594 |
| 利息及び配当金の受取額 | 277 | 262 |
| 利息の支払額 | △1,657 | △1,421 |
| 特別退職金の支払額 | △1,474 | — |
| 法人税等の支払額又は還付額(△は支払) | 153 | △1,976 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 6,405 | 3,459 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形及び無形固定資産の取得による支出 | △772 | △1,727 |
| 有形及び無形固定資産の売却による収入 | 833 | 39 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △1 | △0 |
| 投資有価証券の売却による収入 | 15 | 4 |
| 貸付けによる支出 | △13 | △5 |
| 貸付金の回収による収入 | 46 | 24 |
| その他 | 184 | △203 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 293 | △1,868 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額(△は減少) | △5,978 | △3,206 |
| 長期借入れによる収入 | 9,600 | 13,552 |
| 長期借入金の返済による支出 | △12,489 | △13,323 |
| 社債の償還による支出 | △40 | △10 |
| 新株予約権の発行による収入 | — | 14 |
| 新株予約権の行使による株式の発行による収入 | — | 4,174 |
| 配当金の支払額 | △1 | △0 |
| セールアンド割賦バック取引による収入 | 1,004 | 674 |
| セールアンド割賦バック債務返済による支出 | △1,060 | △564 |
| その他 | △480 | △474 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △9,445 | 837 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 1,027 | 617 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △1,720 | 3,045 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 7,960 | 6,239 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 6,239 | 9,285 |

1938

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2014

1938.12 東京都の機械業者約900名が出資し、「東京重機製造工業組合」として発足

1943. 9 株式会社に改組し、「東京重機工業株式会社」と改称

1947. 4 家庭用ミシン発売開始
戦後のJUKI再生事業として「ミシン」を選択しました。家庭用ミシン1号機の「HA-1」は約70%の部品を自製し、品質・性能に優れていたため、審査会において最高位の通産大臣賞を受賞しました。



1953. 3 工業用ミシン発売開始
家庭用ミシンの販売開始から6年後、新たに販売を開始した工業用ミシン「DDW-II」は恩賜発明賞を受賞し、「技術のJUKI」の歴史が始まりました。



1957. 4 単軸回転天秤の発明が恩賜発明賞を受賞

1961.10 東京証券取引所第二部上場

1963. 7 株式会社ジューキ広島製作所（現 JUKI広島株式会社）を設立

1964. 8 東京証券取引所ならびに大阪証券取引所第一部上場

1966. 7 株式会社中島製作所（現 JUKI松江株式会社）をグループ化

1969. 1 株式会社鈴形精密工業所をグループ化

1969. 2 世界初、安定した「自動糸切り」を実現したミシンを開発
各社が開発を競う夢の技術「自動糸切り」機能を、世界で初めて安定した品質で製品に搭載したDDL-555-2型を発売。JUKIはこれをきっかけに業界で認められ、苦戦していた海外での販売に弾みがつき、世界シェアトップ企業への足がかりを作りました。



1969. 9 三瀬谷工業株式会社（現 JUKI金属株式会社）を設立

1970. 7 JUKI (HONG KONG) LTD.を設立
工業用ミシン事業への参入から3年後の1956年より輸出を開始し、その2年後には香港に技術者を駐在させ、1970年に初の販売会社を香港に設立しました。続いて1972年にヨーロッパ（ドイツ）、1974年にアメリカに販売会社を設立し、よりお客様に近いところでのサービス体制を整えました。



1971. 4 大田原工場竣工
工業用ミシンの生産が拡大し、本社工場（当時）だけでは限界となったため、一貫生産の工場を建設。行政の誘致や周辺の協力工場などの諸条件が合致した大田原市に工場を建設しました。現在、国内外14工場が稼働していますが、大田原工場はマザー工場として重要な役割を担っています。



1972. 4 JUKI (EUROPE) GMBHを設立

1973. 4 会津精密株式会社（現 JUKI会津株式会社）を設立

1973. 9 ジューキ電子工業株式会社（現 JUKI電子工業株式会社）を設立

1973.11 株式会社吉野製作所（現 JUKI吉野工業株式会社）を設立

1973.11 秋田精密株式会社（現 JUKI秋田精密株式会社）を設立

1974. 3 JUKI AMERICA, INC.を設立

1981.10 工業用ミシン本部がデミング賞を受賞（実施賞事業部賞）
製品のみならずサービスを含めたあらゆる仕事の質を向上させるための取り組みとしてTQC経営を導入。統計的手法を駆使する管理を徹底するため指導・教育を繰り返し、導入から5年後、厳しい審査の末、デミング賞を受賞しました。この取り組みは、生産・販売などのあらゆる活動に活かされています。



1987. 7 チップマウンタ発売開始
コンピュータや電化製品などあらゆる製品基板の生産が「表面実装」に変化する中、工業用ミシンと電子機器の開発・生産で培ったメカトロニクスの技術を基にチップマウンタを開発し、産業装置事業に参入。大型高速機が主流だった業界に「モジュラーコンセプト」の概念を提唱し新風を巻き起こしました。



1988. 4 JUKI株式会社に社名変更
重機械メーカー的なイメージから脱皮し、製品ブランドとしてすでに認知されていた「JUKI」と一致させ、さらなるグローバル化をはかるため「東京重機工業株式会社」から社名を変更。「JUKIロゴタイプ」を刷新し、コーポレートスローガン「Mind & Technology」を制定しました。



1990. 6 上海重機ミシン有限公司を設立

1994.11 東京重機国際貿易（上海）有限公司を設立

1995. 1 TAN THUAN PRECISION CO., LTD.（現 JUKI (VIETNAM) CO., LTD.）を設立
部品の原価低減活動を目的にJUKIおよびJUKIグループ8社が合同で出資し部品製造会社を設立。当時、ベトナムへの工場進出は珍しく、日系企業としてはJUKIが初めてとなりました。現在は部品製造のほか、工業用ミシンの開発や生産も担う、東南アジアの販売を支える重要な生産会社になりました。



1995. 3 JUKI SINGAPORE PTE. LTD.を設立

1995. 9 新興重機工業有限公司を設立
新興重機工業有限を中国の国営企業と合併で設立。マザー工場である「大田原工場」の全面協力の下、日本製と変わらないJUKI品質の製品を生み出す工場へ。同年11月には「重機（寧波）精密機械有限」を設立し、その後2000年に2つ目の生産工場となる重機（上海）工業有限を中国に設立しました。



1995.11 重機（寧波）服装設備工業有限公司（現 重機（寧波）精密機械有限公司）を設立

1997.12 世界初の機構「下糸自動供給装置」（工業用ミシン）が機械振興協会賞を受賞

1999.10 JUKI販売株式会社を設立

2000.10 重機（上海）工業有限公司を設立

2000.10 JUKI MACHINERY (INDIA) PVT.LTD.（現 JUKI INDIA PVT.LTD.）を設立

2001. 1 重機（中国）投資有限公司を設立

2001. 10 JUKI AUTOMATION SYSTEMS INC.をグループ化

2005. 7 JUKI CENTRAL EUROPE SP.ZO.Oを設立

2006.10 JUKI SMT ASIA CO., LTD.を設立

2009.12 本社および研究開発機能を東京都多摩市の新社屋へ移転
創業の地「調布市国領町」から、企業誘致により「多摩市鶴牧」に建設した新社屋へ本社・研究開発機能を移転。新社屋は地上8階、地下2階の建物に、音や振動、耐久性などの検査設備を備え、さらなる仕事の効率化や製品品質の向上が可能になりました。



2011. 3 JUKI DO BRASIL COMERCIO E SERVICOS DE MAQUINAS LTDA.でチップマウンタ、工業用ミシンの営業活動を開始

2011. 7 JUKI MACHINERY BANGLADESH LTD.を設立

2012. 5 JUKI MACHINERY VIETNAM CO.,LTD.を設立

2013. 8 JUKIオートメーションシステムズ株式会社を設立

2014. 3 JUKIオートメーションシステムズ株式会社とソニーイーエムシーエス株式の実装機器事業部門を統合
JUKI産業装置事業を担うJUKIオートメーションシステムズ株式会社とソニーイーエムシーエス株式の実装機器の事業部門を統合しました。これによりJUKIが得意とする汎用機とソニーが持つ高速機・印刷機・検査機を組み合わせた製品が拡充し、ラインソリューション提案が可能になりました。





製造拠点

国内

| | | |
|------------------|---------|----------------------|
| 1 JUKI 電子工業株式会社 | 秋田県横手市 | チップマウンタ等の製造、電子機器等の製造 |
| 2 JUKI 吉野工業株式会社 | 秋田県横手市 | 精密機械器具部品の製造 |
| 3 JUKI 秋田精密株式会社 | 秋田県大仙市 | 板金・プレス加工部品の製造 |
| 4 JUKI 会津株式会社 | 福島県喜多方市 | ロストワックス・MIM 製法部品の製造 |
| 5 株式会社鈴鹿精密工業所 | 新潟県長岡市 | 工業用マシン等の部品製造 |
| 6 JUKI 株式会社大田原工場 | 栃木県大田原市 | 工業用マシンの製造 |
| 7 JUKI 金属株式会社 | 三重県大台町 | 鋳鉄鋳物等の製造 |
| 8 JUKI 広島株式会社 | 広島県三次市 | 金型・プレス加工部品等の製造 |
| 9 JUKI 松江株式会社 | 島根県松江市 | 工業用マシン等の製造 |

海外

| | | |
|-------------------|------------|-------------------------|
| 10 重機(上海)工業有限公司 | 中国・上海 | 工業用マシン等の製造 |
| 11 新興重機工業有限公司 | 中国・河北省 | 工業用マシン等の製造 |
| 12 上海重機マシン有限公司 | 中国・上海 | 家庭用マシン等の製造 |
| 13 重機(寧波)精密機械有限公司 | 中国・浙江省 | 工業用マシン部品等の製造 |
| 14 JUKI ベトナム株式会社 | ベトナム・ホーチミン | 工業用マシン等の製造、ロストワックス部品の製造 |

開発拠点

国内

| | | |
|--------------------------------|---------|-------------------------------|
| 1 JUKI 株式会社 | 東京都多摩市 | 工業用マシン、家庭用マシン、チップマウンタ等の開発 |
| 2 JUKI 電子工業株式会社 | 秋田県横手市 | チップマウンタ等、電子機器等の開発、グループ事業関連の開発 |
| 3 JUKI 株式会社大田原工場 | 栃木県大田原市 | 工業用マシンの開発 |
| 4 JUKI オートメーションシステムズ株式会社 | 東京都多摩市 | チップマウンタ等の開発 |
| 5 JUKI オートメーションシステムズ株式会社 稲沢サイト | 愛知県稲沢市 | チップマウンタ等の開発 |
| 6 JUKI 松江株式会社 | 島根県松江市 | 工業用マシンの開発 |

海外

| | | |
|-----------------|------------|-----------|
| 7 重機(上海)工業有限公司 | 中国・上海 | 工業用マシンの開発 |
| 8 JUKI ベトナム株式会社 | ベトナム・ホーチミン | 工業用マシンの開発 |

販売拠点

国内

| | | |
|--------------------------|--------|-------------------|
| 1 JUKI オートメーションシステムズ株式会社 | 東京都多摩市 | チップマウンタ等の販売 |
| 2 JUKI 販売株式会社 | 東京都多摩市 | 工業用マシン、家庭用マシン等の販売 |

● 支店/営業所/サービスセンター 等

海外

| | | |
|--------------------------|---------------|--------------------|
| 3 重機(中国)投資有限公司 | 中国・上海 | 工業用マシン、家庭用マシン等の販売 |
| 4 JUKI 香港株式会社 | 中国・香港 | 工業用マシン等の販売 |
| 5 東京重機国際貿易(上海)有限公司 | 中国・上海 | チップマウンタ等の販売 |
| 6 JUKI シンガポール株式会社 | シンガポール・サイバーハブ | 工業用マシン、家庭用マシン等の販売 |
| 7 JUKI インディア株式会社 | インド・バンガロール | 工業用マシン、チップマウンタ等の販売 |
| 8 JUKI マシナリーベトナム株式会社 | ベトナム・ホーチミン | 工業用マシン、家庭用マシン等の販売 |
| 9 JUKI マシナリーバングラデシュ株式会社 | バングラデシュ・ダッカ | 工業用マシン等の販売 |
| 10 JUKI SMT アジア株式会社 | タイ・チョンブリ | チップマウンタ等の販売 |
| 11 JUKI セントラルヨーロッパ株式会社 | ポーランド・ワルシャワ | 工業用マシン、家庭用マシン等の販売 |
| 12 JUKI イタリア株式会社 | イタリア・ミラノ | 工業用マシン、家庭用マシン等の販売 |
| 13 JUKI アメリカ株式会社 | アメリカ・フロリダ | 工業用マシン、家庭用マシン等の販売 |
| 14 JUKI オートメーションシステムズINC | アメリカ・ノースカロライナ | チップマウンタ等の販売 |
| 15 JUKI オートメーションシステムズAG | スイス・ソロトゥルン | チップマウンタ等の販売 |
| 16 JUKI ド・ブラジル株式会社 | ブラジル・サンパウロ | チップマウンタ等の販売 |

● 支店/駐在員事務所/サービスセンター 等

その他拠点

| | | |
|------------------------|--------|--------------------|
| 1 JUKI 家庭製品お客様センター株式会社 | 東京都多摩市 | 家庭用マシンのサービス対応 |
| 2 JUKI リビングクラブ株式会社 | 東京都多摩市 | 友の会の管理 |
| 3 JUKI ゼネラルサービス株式会社 | 東京都多摩市 | ビル管理・リフォーム・印刷他サービス |

JUKIはどんな会社?

JUKIが目指すもの

JUKIの事業

企業価値創造を支える力

データセクション

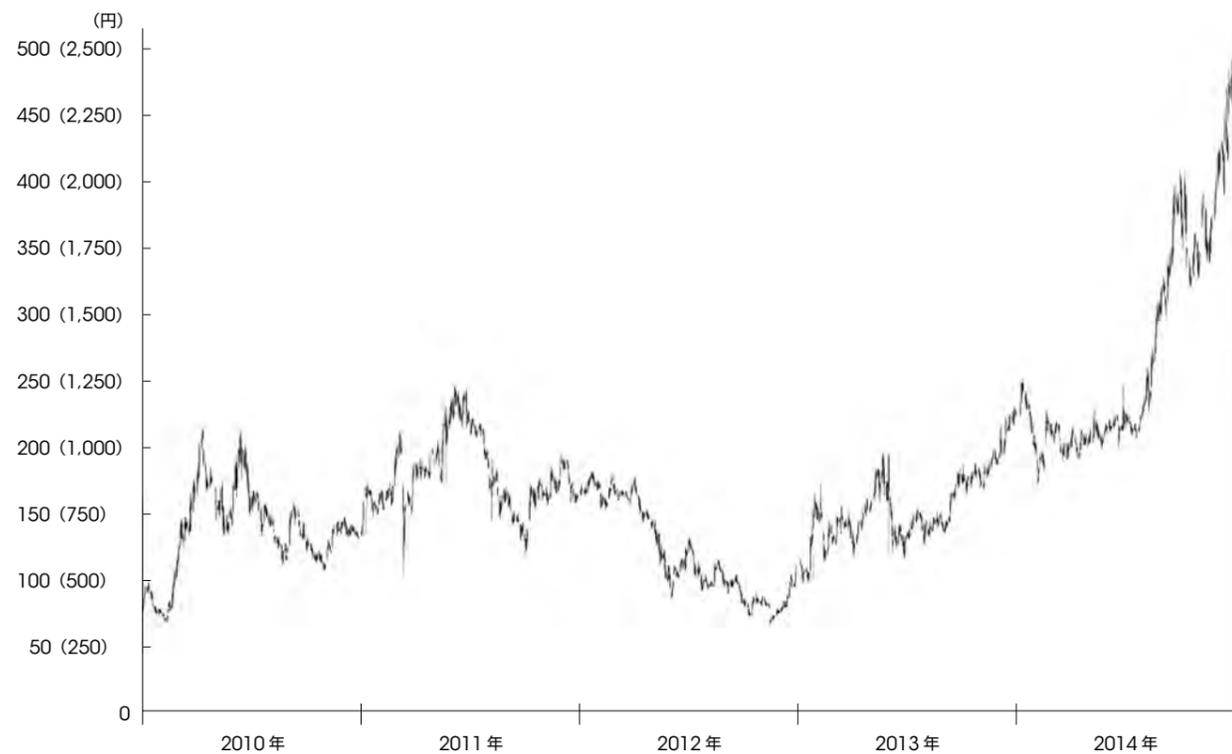
会社概要

| | | | |
|--------|---------------------|--------------------------|--------------------|
| 商号 | JUKI株式会社 | | |
| 創立 | 1938年12月15日 | | |
| 資本金 | 180億4,471万円 | | |
| 主要事業所 | 本社 | 〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1 | Tel : 042-357-2211 |
| | 大田原工場 | 〒324-0011 栃木県大田原市北金丸1863 | Tel : 0287-23-5111 |
| 決算期 | 12月31日 | | |
| 定時株主総会 | 3月 | | |
| 従業員 | 6,153名(連結)、759名(単体) | | |
| 連結子会社 | 31社 | | |

株式情報

| | |
|---------|----------------------|
| 株式数 | 発行済株式総数 149,370,899株 |
| 株主数 | 10,298名 |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所 第一部(貸借銘柄) |
| | 証券コード6440 |
| 株主名簿管理人 | みずほ信託銀行株式会社 |

過去5年間の株価推移のグラフ



() : 2015年7月1日効力発生の株式併合後の株価

Mind & Technology

JUKI

JUKI株式会社 総務部

〒206-8551 東京都多摩市鶴牧 2-11-1 TEL 042-357-2398

<http://www.juki.co.jp/>

